都市文化研究　Studies in Urban Cultures
Vol. 12, 12-23頁，2010

◇論　文◇

# 隋開皇年間における官僚の長安・洛陽居住

## —— 北人・南人墓誌記載の埋葬地分析から ——

室山　留美子

**◆要　旨**

唐代では，有力氏族がその本貫を離れ，両京（長安・洛陽）に居住と墓を移すことが指摘されている。このような両京への居住の集中は，いわゆる隋唐官僚貴族の成立と密接な関係があり，かつまた，魏晋南北朝の有力氏族の本質そのものに深く関わる問題として重要である。本稿は，その都市居住化の動きの初発点は，隋の天下統一と新都大興城の建設ではないかと予測し，隋開皇年間における官僚の居住の実態を明らかにしようとする試みである。葬地の所在は，その周辺にその氏族の居住があったことを示すと考えられる。したがって都居住化の実態を具体的に検証するためには，葬地の変遷を分析することが有効であることから，本稿では墓誌を手がかりとし，開皇年間の北人（旧北朝下官僚）と南人（旧南朝下官僚）の葬地選択を検証した。北人墓の葬地選択については，北魏から華北の東西分裂，北周の北斉併合時の葬地変遷の流れを視野にいれつつ照合し，南人墓については，孫呉・西晉・南朝時の有力氏族家族墓の所在を確認し，後梁・陳滅亡後と，北朝に降下した南人の動態を追った。その結果，北斉出身の山東氏族と弘農楊氏は郷里に帰葬しているが，多くの氏族は長安と洛陽に葬地が集中する。さらに，北朝時期の祖先墓を，本貫または長安・洛陽に移設するという長期間経過後の遷葬が多く見られたが，洛陽については北魏洛陽遷都後に形成された一族墓の存在が関与していると思われる。また長安と洛陽については，北周出身官僚は長安に，北斉出身官僚は洛陽に埋葬する傾向が見いだされた。南人墓は，墓誌自体の存在が極めて少なく現時点では判然としなかったが，少なくとも南朝下の祖先墓を他所へ移設するという長期間経過後の遷葬は確認できなかった。以上の隋開皇年間の葬地の状況からみると，すなわちこの時期において，すでに都居住化の傾向が始まっていると考えられる。

**キーワード**：　都居住，開皇，葬地選択，墓誌，南北朝隋墓

（2009年9月18日論文受理，2009年11月6日採録決定　『都市文化研究』編集委員会）

## はじめに

唐代の門閥氏族の居住地について，毛漢光氏は，長い伝統と高い家格を誇る名族[1)]が，唐代では緩やかな変化を伴いながら，本貫を離れて主として両京（長安・洛陽）一帯に「新貫」をもち[2)]，王朝権力への従属度を強めていくことを指摘している［毛1981］。このような両京への居住化は，毛氏のいう王朝権力への従属度の点からみて，唐のいわゆる「官僚貴族」成立の問題と密接な関係があると推測できるのであるが，同時にそれは，唐の「官僚貴族」と魏晋南北朝の有力氏族（いわゆる「六朝貴族」）との関係，さらには魏晋南北朝の有力氏族の本質そのものに深く関わる問題でもある。この点について，かつて筆者は，魏晋南北朝の有力氏族らがその存在の根元として，郷里（本貫）との関係を重視するのか，あるいは皇帝権力を重視するのかという従来の六朝貴族制研究の基本的視点に連なる問題意識のもとに，墓地の所在が六朝貴族の本質を検討する際の重要な手がかりになるであろうという見通しを立て，北朝を対象として以下の考察を行った。

北魏洛陽遷都前，漢人官僚の葬地は，徙民政策と関連した禁制によって代都に集中し，遷都後は，居住は洛陽へと集中するが，一族墓は洛陽と郷里（本貫）に分離する［室山2006］。北魏分裂後では，洛陽が破壊され，また東西政権の都が鄴と長安に移り，ますます都居住が主流となるなか，それぞれの政権が領有する土地に本貫が含

まれるか否かという新たな条件が加わり，東魏・北斉においては，郷里がその領土に含まれ，結果として郷里との関係を保持できた山東氏族はいぜんとしてそこへ帰葬するが，それ以外の氏族は居住空間でもある都周辺に葬地を求めた。だが北周の北斉併合直後は，東西に分裂していた有力氏族は，郷里に遷葬し一族墓を再形成する動きをみせ，そのほかの氏族は，洛陽へと葬地を求めた［室山2007①］。

以上のように北朝では，都に埋葬するもの，すなわち都に主として居住していたと思われるものと，都に居住したことがあったとしても，最後には郷里に帰葬されるものとがある。少なくともこのように大別される類型の存在は，前述した，郷里との関係を重視するのか，あるいは皇帝の政治権力への従属を重視するのか，というふたつの要素が，彼らの本質において相剋していることを推測させる。こうした北朝の動向からすれば，毛氏の指摘する両京居住の現象は，氏自身が述べているように，王朝権力への従属度が強まっているという点で，魏晋南北朝の有力氏族の本質の一部と思われる，郷里社会との関係が後退し，皇帝権力との結合が前面に出てくることを示すと理解できる。また，唐の有力氏族の両京居住化は，たとえ彼らが魏晋南北朝の有力氏族と同一系譜にあったとしても，魏晋南北朝と唐との間でその本質が変化していることを明示する現象でもあるといえよう。

このように，上層階級の居住地の問題は，単なる生活空間の所在のみにとどまらない重要な意味をもっているのであるが，この時期の居住地を直接的に示す史料は甚だ少ない。ただ，前述の北朝の例に窺えるように，居住地と墓地の関係は不可分のものである。ゆえに，当時の上層階級は，本籍地帰葬などの特例的な場合を除いては，通常は永住的居住地の近辺に墓地を営むであろうと予測し，この葬地を手がかりとして都居住化の現象を検証したい。

ところで，唐代における両京への居住集中の端緒は，どこに求められるであろうか。北朝の場合に見られたように，遷都と領土の変化は，それまで別々の政権下にあった人びとの葬地選択に直接的に関与すると思われるが，このような条件が劇的に変化したのは，隋開皇年間である。開皇という時期は，北人（本稿では旧北朝下官僚を指す）にとっては，北周の北斉併合から数年にして隋へと政権が交代し，さらにまた統一によって領土が拡大され，唯一の都が出現した。

一方，南人（本稿では旧南朝下官僚を指す）にとっては，所属する政権の滅亡と遷都，そして領土の変化があった。それゆえ，隋開皇年間に焦点をあて，この時代に至る経緯にも注意しながら，本稿では北人と南人のそれぞれの葬地の変遷をみていくこととしたい。

## 一 居住地と葬地

まずは開皇年間の葬地選択を示す史料を収集整理し，全体の傾向を把握する。

文帝期における官僚の卒地については『隋書』に数例の記事があり，概ね都であることがわかる（巻46元暉伝，巻50李禮先伝，巻54元亨伝）。いま墓誌に記載された開皇年間の卒地をみるに，戦地や赴任地で死亡した場合を除いて，私第を示す「宅」「第」の場所は，晉陽・廣州・勃海など各地にみえるものの，多くは長安・洛陽に集中している。これは北朝に引き続き，官僚の居住地が都長安と洛陽に移っていることを示す。ただし，元氏は洛陽を本貫にもつので，洛陽に卒地があることは郷里居住ともとらえることができる。

一方葬地について，『隋書』はほとんど言及しない[3]。さらに文帝の「泰（太）陵」（独孤皇后合葬，仁寿4年冬10月）に，官僚を陪葬した記事もない。これは北朝正史とは異なる特徴である。例えば『魏書』には，平城時代に「金陵」「雲中金陵」への陪葬の記事が多数みられ，さらに全時期を通じて一般官僚の卒地・葬地，遷葬の経緯や合葬の訴訟にまで亘る詳細な記録がある。また南朝正史も含め，恩恵として賜与される品々や贈官・諡について，時にはその詔原文を引用して事細かに記述されるが，『隋書』にはこうした死亡から埋葬にまつわる記事は少ない。唐代正史には，皇陵陪葬を除いた一般の葬地に関する記載がないが［毛1981］，このような葬地に関する記述の時代的差異が何に由来するのかは，いまはひとまずおくとして，本稿では対象史料を墓誌に求め，葬地の事例を見ていきたい。近年に出版された，王其禕・周暁薇編著『隋代墓誌銘彙考』（綿装書局，2007）は，金石類書籍から最新の出土墓誌（発掘報告書未掲載も含む）までをくまなく収集し，かつ墓誌の基本情報及び歴代著作の考証を網羅し得ている点で，現在のところ最も包括的な墓誌資料集成であると思われる。同書に収録されている開皇年間の墓誌を，表1に列挙した（表中の番号は，『隋代墓誌銘彙考』の墓誌番号と対応している）。

# 表1　開皇年間の死葬地

| No. | ⑮記号 | ①墓主*字<br>②史伝 | ③入隋経緯<br>④墓誌標題冒頭 | ⑤死亡年(西暦)月日<br>⑥埋葬年(西暦)月日 | ⑦享年<br>⑧墓誌記載本籍地 | ⑨死亡地<br>⑩埋葬地 | ⑪墓誌出土地<br>⑫墓誌ｽｹｰﾙ(高×寛×高) | ⑬墓誌記載祖先(任官) | ⑭備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 北周亡(開皇元年2月:581) | | | | | | | | | |
| 1 | →<br>▲ | 梁暄*季明 | 北魏→周→隋<br>「大隋使持節…」 | 開皇2(582)正/1<br>開皇2(582)正/28 | 79歳<br>洛陽 | 家<br>長安縣堺族正李端下,高官 澧水之南 | 2004年西安市長安縣澧水南岸<br>42×42×5 | 祖:暢(北魏)<br>父:敬(北魏) | |
| 2 | →◎ | 高潭*子澈 | 北斉→北周‖<br>「故周殄寇將軍…」 | 北周大象2(580)9/13<br>開皇2(582)2/22 | 44歳<br>勃海條 | 官寺(陽安:今四川簡陽県)<br>冀州渤海郡條縣南之西卅里 | 1973年河北省景県野林荘郷大高義村<br>57×57 | 祖:翼(北魏・北斉)<br>父:季武(北斉) | 文物1979-3 |
| 3 | ◎ | 楊通*達之 | 北朝→隋<br>「隋故廬陵太守…」 | 開皇元(581)2/3<br>開皇2(582)4/6 | 青州盤陽郡 | 淄川城東八里 | 山東省淄博<br>43×41 | 祖:東漢(北朝)<br>父:猛(北朝) | |
| (4) | (▲夫) | 阿史那氏<br>周9,北14 | 北周‖ | 開皇2(582)4/23<br>開皇2(582)4/29 | | 孝陵 | 1993年収蔵<br>48×48×9 | 夫:北周武帝 | |
| 5 | →<br>▲ | 葛洪*義寛 | 北周‖<br>「周故使持節…」 | 北周大象2(580)8/1<br>開皇2(582)7/18 | 38歳<br>屬門 | 涇州<br>咸陽之耕原 | 2001年陝西咸陽<br>43×42 | 祖:廣平(北朝)<br>父:義陽(北朝) | 起家は周明帝挽郎 |
| (6) | | 楊元伯妻邵陁胝 | | 開皇2(582)12/6 | | | 不明<br>磚25×13 | | 16字のみ |
| 7 | | 李和*慶穆<br>周29,北66 | 魏→北周→隋<br>「大隋使持節…」 | 開皇2(582)4/15<br>開皇2(582)12/26 | 77歳<br>隴西狄道 | 家<br>馮翊郡華池縣萬壽原 | 陝西省三原県陵前郷<br>86×86 | 祖:儼<br>父:辯 | 死亡後に追贈･諡「禮也」の詔記載有り |
| (8) | ◎夫 | 李君妻崔芷蔡 | 「維大隋開皇二年…」 | 開皇2(582)9/15<br>開皇2(582)12/26 | 70歳<br>博陵安平 | 都仁郷吉邏里<br>祔於舊塋 | 20世紀末河北正定県<br>83×82 | 祖:挺(北魏)<br>父:芬(北周) | 第2兄は崔宣猷 |
| (9) | <br>▲ | 賀蘭祥妻劉氏 | 北周→隋 | 開皇2(582)12/12<br>開皇3(583)2/15 | 66歳<br>恒農郡華陰県 | 長安第<br>咸陽洪渡原 | 1965年陝西省咸陽秦都区周陵郷<br>56×56×11 | 父:朔州刺史 | 夫賀蘭祥墓誌同時出土<br>保定2年 |
| (10) | ◎夫 | 封子繪妻王楚英 | | 開皇元(581)12/28<br>開皇3(583)2/15 | | 勃海條縣新安里第<br>合葬於舊塋<br>太原晉陽 | 1948年河北景県安陵区前郷一八乱塚<br>57×56 | 夫:封子繪(北斉) | 考古通訊1957-3<br>正面･背面刻字 |
| 11 | ⇒◎ | 張叔*士仁 | 北斉‖ | 北斉天保6(555)<br>開皇3(583)2/15 | 43歳<br>北趙郡元氏 | 芒阜<br>魏郡釣嗣之安仁里 | 河北臨漳縣<br>37×37 | | 宋循墓誌と出土地近 |
| 12 | ◎ | 孫高*君認 | 天統2年(566)生<br>「孫君墓銘」(塼) | 開皇3(583)6/6<br>開皇3(583)6/9 | 18歳<br>汲郡朝歌 | 家<br>汲郡城東北四里 | 河南省滑県(出土地不詳説あり)<br>27.5×34.5 | | |
| 13 | <br>△ | 張顔*清画 | 北周→隋<br>「隋故羽林監…」 | 開皇3(583)7/26<br>開皇3(583)10/8 | 66歳<br>定州中山 | 崇信里<br>張萬擒西北二里 | 河南洛陽<br>不明 | 祖:法顕(魏・北斉)<br>父:武成(魏・北斉) | 「大象之季,遷入洛京」 |
| (14) | →※<br>△ | 寇熾妻姜敬親 | 北周‖<br>「魏故廣州長史…」 | 開皇元(581)12/9<br>開皇3(583)10/19 | 80歳<br>天水冀 | 廣州宅<br>洛陽城西邙山宣穆公之墓次 | 1925年洛陽車馬溝村<br>57×56×5 | 祖:元景<br>父:伯和 | 撰書は子の寇士璋 |
| 15 | →※<br><br>△ | 寇奉叔*遵夏 | 西魏→北周→隋<br>「隋故使持節…」 | 開皇2(582)3/18<br>開皇3(583)10/19 | 76歳<br>上谷昌平 | 第<br>反葬河陰縣之芒山河南宣穆公之墓次 | 河南洛陽城東北欒駕溝<br>65.6×66.2 | 高祖:脩之,曽祖:讃(北魏)<br>祖:臻(北魏),父:偁(西魏・北周) | 死亡後,詔にて追贈･「禮也」 |
| 16 | ◎ | 劉璽*子明 | 北斉→隋<br>「斉故郡功曹主簿…」 | 開皇2(582)4/2<br>開皇3(583)10/19 | 58歳<br>徐州彭城郡彭城縣叢亭里 | 家<br>旧鎮之所 | 1994年江蘇省徐州市銅山県茅村郷花馬荘村(墓葬あり)<br>91.5×52×12 | 祖:劉芳(北魏)<br>父:悦(北魏) | 考古1998-9<br>「済州刺史前法曹参軍房導書」 |
| 17 | | □静*廻楽 | 周→隋<br>「隋馮翊師大将軍…」 | 開皇3(583)5/20<br>開皇3(583)10/19 | 86歳<br>南陽荊州 | 上党郡郷義里<br>合葬於譙州城東南五里 | 山西襄垣縣<br>42.3×45.5 | 祖:嵩(北朝)<br>父:兗(北朝) | 高祖龍は魏平文初に起家<br>王姓説あり |
| 18 | →※<br>△ | 寇□*遵考 | 北魏→周→隋<br>「隋馮翊師大将軍…」 | 開皇3(583)7/6<br>開皇3(583)10/19 | 58歳<br>上谷昌平 | 京舎<br>洛陽之北邙 | 洛陽<br>57.2×57.2 | 高祖:脩之,曽祖:讃(北魏)<br>祖:臻(北魏),父:偁(西魏・北周) | |
| 19 | <br>△ | 梁忌*元和 | 東魏→その後任官無<br>「魏故奉朝請…」 | 開皇3(583)5/14<br>開皇3(583)10/20 | 62歳<br>天水冀 | 洛城首陽郷陳留里<br>洛城之北邙阜之陽 | 1931年洛陽東北朱家倉村<br>50.8×52 | 高祖:裳(魏)<br>祖:始平,父:慧楽 | 梁坦の子 |
| 20 | ⇒<br>夫人:杜氏<br>△ | 梁坦*慧楽 | 東魏→梁‖<br>「魏故使持節…」 | 梁天監14(515)<br>開皇3(583)9/20<br>開皇3(583)10/20 | 64歳<br>天水冀<br>妻:京兆 | 私第,霊柩仍在梁朝,未帰丘塋<br>洛川<br>合葬芒嶺之陽洛城之北 | 洛陽故城東北陵上<br>52.3×52.3 | 祖:<br>父: | 梁に遺体あり,招魂葬<br>19墓誌と同一の手による |
| 21 | ⇒◎ | 王軌*仲憲<br>妻:馮氏 | 北斉‖<br>「斉故章武郡主簿…」 | 北斉天保7(556)6月<br>開皇3(583)11/14 | 46歳<br>文安県<br>妻:□□ | 相州<br>合葬於瀛州城東五十里王口村西舊塋 | 1949年後出土(不明)<br>39.5×39.5×8 | 祖:□<br>父:文 | |
| 22 | <br>▲ | 王士良*君明<br>周36,北67 | 北斉→周→隋<br>「大隋使持節…」 | 開皇3(583)6/26<br>開皇2(582)11/14 | 77歳<br>并州晉陽 | 私第<br>遷葬涇陽縣洪濱川 | 1988年陝西咸陽市底張湾場<br>65×68 | 遠祖:昶(北魏)<br>父:名 | 伝では開皇元年死,82歳 |
| 23 | | 羅暎*光先<br>妻:咎氏 | 「故人蕩寇将軍…」 | 大周開皇三年(ママ)11/14 | 益州蜀郡漠昌 | 匡山之里,黄山之陽 | 山東臨淄市<br>54×35 | 祖:招(北魏)<br>父:志(北魏) | 碑型 |
| 24 | ⇒※<br>△ | 源賜*世傑 | 北斉‖<br>「魏京畿府司馬源…」 | 北斉武定5(547)11/14<br>北斉武定5(547)11/14<br>開皇3(583)11/14 | 40歳<br>西平樂都 | 城安縣崇仁里<br>権窆於鄴城之北二里<br>遷葬於洛陽河南先公之舊塋 | 河南洛陽<br>45×44.5 | 曽祖:賀(北魏)<br>祖:源,父:纂(北魏) | |
| 25 | | 邵威*文立<br>妻:上武 | 「随〔ママ〕故邵府…」 | 開皇3(583)8月<br>開皇3(583)11/17 | 屬門郡 | 長州□□…武丘塋原□□… | 不明<br>磚30.5×30.5 | 祖:洪哲<br>父:久漸 | |
| 26 | | 張靜*僧泰<br>父･子4名合葬 | 「武衛将軍」※<br>「□□開皇三年…」<br>※北魏･北斉･梁にあり。隋唐なし | 開皇3(583)11/20 | 49歳<br>清河 | | 1984年安徽省合肥市西郊<br>25.5×58 | 父:景(劉宋)<br>大子:元通(南斉)37歳<br>4子:元叔(陳)29歳<br>2子:伍郎(陳)<br>3子:元略(陳) | 墓誌には家族五墳<br>文物1988-1 |
| 27 | →<br>▲ | 陰雲*羅雲 | 北周→隋<br>「大隋使持節…」 | 開皇3(583)5/20<br>開皇3(583)11/25 | 41歳<br>金明廣樂 | 幽州<br>反葬於京兆郡長安県□□郷□□里 | 2003年西安市長安県郭杜鎮<br>70.5×70.5 | 曽祖:志足(魏)<br>祖:買仁,父:嵩 | |
| 28 | ⇒※<br><br>△ | 李貴*士榮<br>妻:王氏 | 北斉‖<br>「斉故趙郡王国…」 | <br>先卒<br>開皇3(583)10/2 | 71歳<br>隴西<br>妻:太原 | 洛陽<br><br>臨漳<br>洛陽城西南十里蘇村西北合葬 | 河南洛陽<br>48×48 | | |
| 29 | ◎ | 楊居*萬安 | 北朝→隋 | 開皇3(583)12/29<br>開皇4(584)3/10 | | 村西北二百歩祖墓之後二昆之傍 | 洛陽<br>48×50 | | 蓋に兎 |
| 30 | × | 韓貴和 | 北斉→北周→隋<br>「韓貴和墓誌」 | 開皇4(584)3/28<br>開皇4(584)4/14 | 91歳<br>荊州南陽 | 今葬在村北三百歩<br><br>晉州降川漳壁上韓村,在西三里常弟韓買奴墓… | 1999年山西沁源縣郭道鎮東村<br>40.5×38×38 | | 文物2003-8<br>石銘一枚,石柱,羊･虎などの記載 |
| (31) | | 王君妻張氏 | | 開皇4(584)9/5<br>開皇4(584)10/3 | 50歳<br>□州 | | 不明 | | |
| 32 | | 徐敏行*納言<br>妻:陽氏 | 周→隋<br>「故駕部侍郎徐君墓誌」 | 開皇4(584)5/17<br>開皇4(584)10/14 | 42歳 | 合葬英山西南儀同公墳之東北十歩 | 1976年山東嘉祥県<br>58×58 | | 文物1981-4 |
| 33 | | 田簡眉 | | 開皇4(584)11/3 | | | 不明<br>磚 | | |
| 34 | →◎? | 徐之範(孝規)<br>北斉33,北90 | 南→北斉→周→隋<br>「隋儀同三司徐公墓誌」 | 開皇4(584)4/26<br>開皇4(584)12/2 | 78歳<br>東莞姑幕 | 晉陽縣宅<br>還葬金郷縣都郷郢義里英山之西 | 1976年山東嘉祥県<br>80×80 | | 文物1981-4 |
| (35) | ⇒◎ | 崔仲方妻李麗儀 | 北周‖<br>「隋使持節儀同…」 | 北周天和6年(571)5/17<br>開皇5(585)2/19 | 27歳<br>趙国 | 京師之第<br>祔零壽県脩仁里臨山之大墓 | 1998年河北平山県両河郷西岳村<br>60×63×8 | 祖:弼(魏)<br>父:曜(魏) | 考古2001-2<br>隋朝密接な関係あり |
| 36 | ◎?<br>△? | 元英*洪儁<br>妻:崔氏 | 北周→隋<br>「故潁州別駕…」 | <br>開皇5(585)7/1 | 71歳<br>河南洛陽 | 黄白村<br><br>合葬噎粟嶺 | 不明<br>42.7×43.5 | | |
| 37 | <br>△ | 王通*紹仙 | <br>「故武騎常侍…」 | 開皇5(585)7/9<br>開皇5(585) | 50歳<br>太原 | <br>河陰縣里 | 洛陽孟津<br>32×39 | 父:那 | |
| 38 | →<br>▲ | 宋胡*虎 | 梁→北周→隋<br>「大隋開皇五年…」 | 開皇5(585)4月<br>開皇5(585)8/12 | 51歳<br>襄州当陽郡武陵縣 | 杜化(今の河南霊寶県)<br>高陽原 | 長安県郭杜鎮康都村西北大学<br>46.5×46.2×7.5 | 祖:寶<br>父:逞 | 北周で「寺人(宦官)」 |
| 39 | <br>△ | 橋紹*子軌 | 北斉→隋 | 開皇2(582)6月<br>開皇5(585)10/23 | 71歳<br>梁郡 | 洛城西景平里<br>邙山之陽 | 1928年洛陽東北三里橋村<br>36×35 | 祖:思(西秦)<br>父:洛(東魏) | |
| 40 | | 王振*義遠 | | <br>開皇5(585)11/28 | | <br>恒州高陵郷 | 甘粛省武都<br>磚38×20 | 祖:王悖尼<br>妻:張三嬢 | |
| 41 | ⇒◎ | 李恵*公霊<br>妻:華氏 | 北魏→北斉‖ | 北斉<br>北魏景明3(502)<br>開皇6(586)正/9 | <br>趙郡武城縣 | <br>斉州済南寶公山北<br>合葬於斉州西南,寶公山北 | 1978年済南市馬鞍山北麓王家荘 | 其先:李伯陽 | |
| 42 | ⇒◎ | 李敬族*遠欽 | 北魏→東魏‖<br>「隋故使持節…」 | 東魏武定5(547)11/14<br>東魏武定5(547)12/21<br>開皇6(586)正/30 | 53歳<br>安平 | 鄴城之宅<br>舊里<br>改葬於饒陽県城之東五里敬信郷 | 1963年河北饒陽縣城南五公郷王橋村<br>51×51×9 | 14世祖～曽祖<br>祖:祥胤<br>父:寿 | 開皇5年11/25詔贈･重贈･諡刻字あり。文物1964-10<br>李徳林撰序,陸開明撰銘<br>妻趙蘭姿は北斉武平二年(571)鄴城で死亡 |

# 隋開皇年間における官僚の長安・洛陽居住（室山）

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| (43) | ⇒◎夫 | 李敬族妻趙蘭姿 | 生:太和19(495) | 北斉武平2(571)2/5<br>北斉武平2(571)5/3<br>開皇6(586)正/30 | 77歳<br>曲陽 | 鄴城之宅<br>舊里<br>先君改葬,奉合泉宮 | 1963年河北饒陽縣城南五公郷王橋村<br>45×45×8 | 祖:元孫<br>父:安徳 | 李徳林撰序,古道子撰銘 |
| 44 | ×<br>▲<br>妻:郭氏<br>妻:鄧氏 | 侯明*子欽 | 北魏→北斉→北周→隋 | 開皇4(584)<br>開皇6(586)<br>早卒<br>公薨後卒 | 75歳<br>燕州上谷 | 大興郡邑<br>韋曲東北<br>合葬 | 1991年西安市長安県南里王村西南<br>48.5×47.5 | | |
| 45 | △ | 田達*伽児 | 隋で任官なし | 開皇3(583)6/20<br>開皇6(586)5/10 | 58歳<br>北平無終 | 家<br>薩陽城東牠山之西芒山之南顯安坊北 | 2000年河南洛陽<br>40×40.5 | 祖:徳逸<br>父:貴孫《北魏》 | |
| 46 | ◎ | 裴子休*秀祥 | 北斉→周→隋<br>「隋子儀同三司…」 | 開皇5(585)4/6<br>開皇6(586)9/19 | 72歳<br>正平開喜 | 家<br>汾絳原 | 1992年山西運城地区収集<br>68×67×7 | 祖:保欽<br>父:良 | 裴良の6子,山西運城<br>裴良夫婦・長兄子誕は武平二年同日埋葬,子通は開皇11年(同時発見) |
| 47 | | 伏波将軍□君 | | 開皇6(586)10/2 | | | 1973年安徽省合肥市杏花村五里崗 | | 碑型,考古1976-2 |
| 48 | ▲ | 郁久閭伏仁 | 北斉→周→隋<br>「□□…左親衛…」 | 開皇6(586)10/22 | 22歳<br>河南洛陽 | 私第<br>長安城西六里杜村西 | 陝西長安縣<br>磚32.8×32.5 | 祖:吐萬度吐河入弗<br>父:車朱渾 | 本姓茹茹 |
| 49 | △ | □道*政道<br>妻:□氏 | 東魏・北斉→隋 | 開皇3(583)10/19<br>開皇6(586)10/25 | 72歳<br>関西武都 | 薩陽修仁里<br>合葬:邙山之陽 | 洛陽<br>46.5×49.5 | 祖・益州刺史 | |
| 50 | → | 王乾緒 | 「隋故臨澧子王…」 | 開皇5(585)7/12<br>開皇6(586)10/25 | 44歳<br>太原晉陽 | 相州成安縣堺<br>遷葬於霊芝県霊芝園南五里 | 河北臨漳<br>50.5×50.5 | 祖:楽陵王《魏》<br>父:魏郡太守《魏》 | |
| 51 | ◎ | 朱神達*玄達 | 「子楽陵郡功曹…」 | 開皇4(584)7/7<br>開皇6(586)10/25 | 59歳<br>樂陵 | 涅汰里<br>廣固城之南函霞山之左（今の山東益都） | 1979年山東青州雲峡河回教族自治郷<br>碑形115×55 | 祖:紹<br>父:緒 | |
| 52 | ◎ | 韓祐*景祚 | 北斉→北周→隋 | 開皇6(586)5/6<br>開皇6(586)10/7 | 75歳<br>上黨壺関 | 第<br>長子城南十里堯山之東麓 | 1756年山西省長子県韓坊村<br>60.5×59.8 | 祖:欽<br>父:尚《北斉》 | |
| 53 | ⇒<br>▲ | 劉俠*方仁 | 北周‖<br>「大隋驃騎将軍…」 | 開皇元(580)2/24<br>開皇6(586)11/19 | 52歳<br>定州廬奴 | 官所<br>長安県高陽原司臺里 | 2004年西安市長安県郭杜鎮都村西北大学 | 祖:思<br>父:珍《北周》 | |
| 54 | △ | 伊穆*延和<br>妻:沮渠氏 | | 開皇6(586)11/20 | 上谷 | 合葬 | 河南洛陽<br>43×46 | | |
| 55 | ⇒<br>▲ | 田悦*小楽<br>妻:趙氏 | 北周‖ | 北周建徳5(576)<br>開皇6(586)12/14 | 74歳<br>馮翊廣陽 | 長安之宅<br>大興城西南十有餘里高陽原之所 | 2002年西安市長安県郭杜珍陝西師範<br>40.4×39.5 | | |
| 56 | △ | 呉素*白児<br>妻:樊氏 | 「隋故武連県令…」 | 開皇6(586)10/23<br>開皇6(586)10/24 | 84歳<br>蒲州蒲坂 | 洛川郷<br>家第 | 河南洛陽<br>41×43.5 | | |
| (57) | △ | 李君妻馬希嬢 | | 開皇7(587)4/3<br>開皇7(587)正/9 | | 合葬於洛邑城西南十里洛水之北 | 不明<br>不明 | | |
| 58 | △ | 韓邕*顕和 | 魏→北斉→北周→隋 | 開皇7(587)<br>開皇7(587)8/11 | 86歳<br>昌黎句容 | 相州零泉縣界<br>環瑕郷清化里 | 1975年河南安陽市活水村<br>45×45 | 祖:始《北魏》<br>父:恭《北魏》 | |
| (59) | ◎夫 | 楊寛妻韋始華 | 北周→隋<br>「周大将軍…」 | 開皇7(587)8/25<br>開皇7(587)10/8 | 69歳<br>京兆 | 内寝<br>元公之墓 | 陝西華陰県<br>40×40 | 父:韋洪蕃 | 夫:楊寛先卒《周》 |
| 60 | ?⇒<br>▲ | 王懋*坦度<br>妻:賀抜二嬢<br>周20,北61 | 北周‖<br>「大周使持節…」 | □□元年春正月<br>開皇7(587)8/27<br>開皇7(587)11/11 | 45歳<br>太原晉陽<br>妻:河南 | 位<br>長安第<br>祔於舊塋 | 2002年西安地区収集<br>60×60×9.5 | 祖:珍<br>父:盟 | |
| 61 | | 陳遵*崇徳 | | 開皇8(588)正/15 | 66歳<br>潁川 | 歴城之南函山之北 | 山東済南市八里洼小区<br>53×26×8.5 | 遠祖:敬仲,近祖:穎先《陳》,祖:進《魏》<br>父:授《魏》 | 碑型,両面左側刻字 |
| (62) | | 呂杏洛妻路蘭 | | 開皇8(588)5/20 | | | 河北正定県<br>磚29.5×15 | | |
| 63 | ◎<br>△ | 楊暢*文通 | 北周→隋<br>「大隋開皇八年…」 | 開皇8(588)6/23<br>開皇8(588)7/17 | 43歳<br>陝州弘農 | 本第<br>洛城之西 | 1928年洛陽城東大馬村<br>49×50 | 祖:敬《魏》<br>父:略《北斉》 | 隋帝の疏族? |
| 後梁亡(開皇8年8月・陳禎明2年:588) | | | | | | | | | |
| 64 | ◎ | 呂端*連生 | 西魏→北周→隋<br>「大隋車騎大将軍…」 | 開皇8(588)11/7 | 72歳<br>秦州天水 | 伯陽県界蘭渠郷三陽里 | 1986年甘肅天水豊盛川<br>不明 | 祖:強卿<br>父:龍 | 呂望の後裔と記載 |
| (65) | →◎夫 | 崔昂妻郟仲華 | | 開皇7(587)6/2<br>開皇8(588)11/8 | 66歳<br>滎陽開封 | 蒲吾県郭蘇川之舊宅<br>祔於舊塋 | 1968年河北平山県城北三汲郷上三汲村南<br>62×62×9.5 | 祖:道昭《北魏》<br>父:敬祖《北魏》 | 夫崔昂は北斉埋葬 |
| 66 | ⇒<br>△ | 任顗*徳明<br>妻:張氏 | 北斉‖ | 北斉天保7(556)5/17<br>妻:開皇8(588)9/3<br>開皇8(588)11/20 | 63歳<br>西河 | 私第<br>合葬安陽城西北十里 | 河南安陽市<br>44.5×56 | 祖:驃騎将軍<br>父:河内郡守 | |
| 67 | ⇒◎ | 淳于倹*徳業<br>妻:孟氏 | 北魏‖<br>「淳于倹墓誌銘」 | 北魏<br>開皇8(588) | 63歳<br>冀州清河 | 第<br>合葬於磐陽城西南黄山東北孝水裏 | 清道光末,山東省 淄川<br>95×40 | | |
| 68 | ⇒ | 韋略*士朗 | 北斉‖<br>「故行臺侍郎…」 | 北斉武平3(572)4/26<br>開皇8(588) | 本京兆人,今居徐州之彭城県 | 秦州(戦没:今の江蘇省六合県?)<br>招魂葬於済陰府君墓次 | 江蘇銅山<br>77×68 | 祖:浑 | 夫人:滎陽鄭氏 |
| 陳亡(開皇9年1月:589) | | | | | | | | | |
| 69 | ▲ | 宋忻*智和<br>妻:韋胡磨 | 北斉→北周→隋<br>「大隋使持節…」 | 開皇7(587)4/1<br>開皇9(589)正/20 | 55歳<br>西河 | 私第<br>小陵原<br>妻:穸於大城西,今遷合葬 | 1992年西安市長安県韋曲鎮<br>60.5×61.5×11 | 祖:漢《北朝》<br>父:棄《北朝》 | 考文1994-1<br>考文2000-2 |
| (70) | →◎夫 | 封祖業妻崔氏 | 「夫人崔氏墓誌銘」 | 開皇7(587)11/29<br>開皇9(589)2/26 | 83歳<br>博陵安平 | 里舎<br>舊塋 | 1948年河北省景県東南安陵区前村<br>郷十八乱塚 | 父:崔輔 | 夫:封祖業(延之)墓誌あり。北斉。 |
| 71 | ⇒◎ | 楊又*阿又<br>妻:武氏 | 北魏→西魏?‖ | 西魏大統年間?<br>妻:大統13(537)9月<br>開皇9(589)3/21 | 弘農華陰<br>妻:隴西狄道 | (金州で山民叛乱で没)権穸於同州武郷県洛邑里<br>金城郡<br>遷二殯華州之華陰県澧郷通霊里 | 陝西華陰<br>57×56 | 祖:□《北朝》<br>父:颺《魏》 | 子の欽は墓誌あり(開皇20年) |
| (72) | ⇒◎ | 楊君妻呉女英 | | 北周建徳3(574)5/14<br>開皇9(589)3/21 | 62歳<br>徐州彭城 | 秦州,権殯於略陽里<br>遷葬於華州華陰東原通霊郷通霊里 | 陝西華陰<br>56.5×57.5 | 夫:未婚で戦没 | 夫は北魏普泰年間死亡? |
| 73 | ◎ | 羊烈*儁卿<br>北斉43,北39 | 北斉→北周<br>「太中大夫…」(北斉の歴官) | 開皇6(586)2/16<br>開皇9(589)8/11 | 74歳<br>泰山梁父 | 沙丘里舎<br>宮山之陽 | 1993年山東新泰市羊流鎮<br>87×78×10 | 祖:規之<br>父:霊珍 | 伝では周大象中卒。 |
| 74 | ⇒ | 買雙*雙高 | 西魏‖<br>「買府君之神碑」 | 開皇9大梁8/23(589) | | 恒州城北三里安楽郷 | 近年河北正定<br>59×32×10 | 祖:猛《魏》<br>父:智《魏》 | 碑,中国書法2006-7 |
| 75 | ⇒ | 来和*公静 | 北魏→北斉‖ | 北斉天保4(553)10/26<br>開皇9大梁10/1(589) | 52歳<br>南陽南陽 | 私第<br>河陰鳳鳴郷鳳鳴里 | 1927年洛陽孟津県鳳凰臺<br>53.4×53.8 | 大曾祖:(北魏)<br>父:越《北魏》 | |
| 76 | △ | 宋鋳*景遵 | 北魏→東魏→北周→隋<br>「隋故驃騎将軍…」 | 開皇9(589)10/5<br>開皇9(589)10/13 | 90歳<br>廣平平温 | 木場村第<br>豹嗣西北一里 | 1971年河南安陽安豊公社北豊村西<br>38×38×6.5 | | 考古1973-4,考古1981-3 |
| 77 | ⇒◎<br>▲ | 王昌*進昌<br>妻:薛氏 | 北周‖<br>「周故使持節…」 | 北周建徳2(573)10月<br>開皇9(589)10/13<br>妻:早卒 | 61歳<br>京兆霸陵<br>妻:河東 | 鎮(同軌鎮)<br>遷葬于義成郷孝曲之東原<br>妻:今亦帰於孝曲之塋 | 1997年西安市瀦橋区<br>41×41×8<br>1997年西安市瀦橋区 | 祖:辟耶《北朝》<br>父:挙《北朝》 | 文物2005-10 |
| 78 | ⇒◎<br>▲ | 王瑱*孝璋 | 北周‖ | 北周天和5(570)4/6<br>開皇9(589)10/13 | 29歳<br>京兆霸陵 | 私第<br>改葬霸城之東塋 | 41.5×41.5×8<br>2005年陝西涇陽県永楽鎮 | 祖:麟<br>父:昌《北周》 | 文物2005-10 |
| 79 | ⇒◎<br>▲ | 王仕恭 | 北周‖<br>「周蒙県男仕恭墓誌」 | 北周大象元(579)6/18<br>開皇9(589)10/13 | 14歳 | 豊州<br>遷祔於□祖之域 | 27×27 | 父:措 | 隋の王韶と兄弟か? |
| 80 | △ | 張禮*元賓<br>妻:羅氏 | 「大隋故参…」(蓋) | 開皇8(588)8/8<br>開皇9(589)10/24 | 66歳<br>南陽白水 | 里第<br>合葬張方橋北二里 | 1929年洛陽城東大馬村<br>31×39 | 張華の後裔<br>妻父:羅洪略 | |
| 81 | △ | 張茂*胡仁 | 「隋故軽車将軍…」 | 開皇9(589)正/8<br>開皇9(589)10/24 | 69歳<br>襄州定南 | 平楽郷第<br>芒山之陽,殽水之旒,王村之北二里 | 2002年洛陽孟津送荘郷<br>71×71 | 祖:度《魏》<br>父:寶洛 | 末尾に呪文あり |
| 82 | ⇒◎ | 楊景*景栖<br>妻:梁氏 | 西魏・北周‖<br>「大隋故五華太守…」 | 北周保定5(565)12/13<br>妻:開皇9(589)5/20<br>開皇9(589)10/24 | 48歳<br>華山郡華山県習仙<br>妻:天水 | 家<br>合葬于華陰東原郷通霊里 | 20世紀末陝西華陰<br>56.5×56.5 | 祖:衆<br>父:永寧 | |
| 83 | ◎ | 暴永*延業 | 東魏・北斉<br>「隋故定州…」(蓋) | 開皇9(589)7/3<br>開皇9(589)10/24 | 上党壺関 | 第<br>壺関城西十有五里慈澤郷行義里 | 山西省壺関県<br>47.2×47.2 | 遠祖:聰<br>祖:櫛 | 唐代山西長治に暴氏墓<br>暴永と同一系 |
| (84) | ◎<br>△ | 元範妻郟令妃 | 「故郟夫人墓誌」 | 開皇9(589)7/11<br>開皇6(586)10/24 | 83歳<br>滎陽中牟 | 洛陽欽政里<br>邙山之陽 | 1929年洛陽馬溝村東北<br>54×54 | 父:郟寶<br>夫:元範《西魏》 | |

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 85 | ◎ | 張僧骰<br>息:張潘慶 | | 開皇9(589)10/24 | 相州武安縣 | 武安縣東南一里 | 河北武安<br>21.7×21.7 | | |
| 86 | | 趙洪 | | 開皇9(589)10/24 | | 相州崗西實墓宅 | 河南安陽<br>磚不明 | | 末尾に呪文あり<br>85と同じ書式墓誌文 |
| 87 | ⇒※<br>△ | 爾朱□□(彦伯?)<br>魏75.北48 | 北魏Ⅱ<br>「司徒公故…」 | 北魏永安3(530)<br>開皇9(589)10/24 | 37歳<br>□□ | 洛陽所<br>洛城西北霊山之南 | 河南洛陽<br>39×39 | 祖:字真《北魏》<br>父:珍《北魏》 | 隋代に「詔聴改葬」<br>祖父は爾朱代勁 |
| 88 | ⇒◎ | 裴鴻<br>周4.北38 | 北周Ⅱ<br>「大周開府儀同…」 | 北周保定中(561-565)<br>開皇9(589)10/24 | 正平開喜 | 戦没(陳)<br>正平高梁東原之陽 | 山西新絳県<br>57.5×57.2 | 祖:念<br>父:方興 | 「呉人禮送神柩還京, 詔送使持節開府…禮也」 |
| 89 | ◎ | □丘*思穆 | | 開皇9(589)7/3<br>開皇9(589)10/24 | 済南青州齊郡 | 寄塵壁山之南,黄山之北 | 1982年山東青州市代家荘<br>50×39(碑圭首) | | |
| 90 | △ | 關明*晋哲 | 北斉→隋<br>「大隋開皇九年…」 | 開皇7(587)7月<br>開皇9(589)10/25 | 73歳<br>河東安邑 | 第<br>洛城之西 | 1925年洛陽城東北馬溝<br>48.5×49.2 | 祖:宜陽太守<br>父:彭城君 | |
| 91 | | 趙慎*子預 | 北周Ⅱ<br>「周故儀同…」 | 開皇9(589)11/7 | 77歳<br>本天水人 | 零坡里<br>沃野郷 | 出土地不明<br>48×48.5 | 祖:真《北魏》<br>父:栄 | 沃野郷は王朝によって場所が異なる |
| 92 | ▲ | 皇甫忍 | 「大隋開皇九年…」 | 開皇8(588)10月<br>開皇9(589)11月 | 50歳<br>朝邨 | 任<br>長安県布政郷延休里 | 2005年西安市長安県郭杜鎮<br>38.2×38.2 | 祖:興隆<br>父:憍逸 | |
| 93 | ◎? | 韓智*子哲 | 「韓君墓誌」(蓋) | 開皇9(589)11/20 | 燕国良郷県秤邑郷<br>臨流里 | 燕署之内 | 北京房山区<br>48.5×50 | 祖:據<br>父:瑗 | 曽祖は北魏任官 |
| 94 | ◎ | 楊真*金紫<br>妻:王氏 | | 開皇9(589)12/10<br>開皇9(589)12/25 | 弘農 | 洛州<br>権窓山之陽 | 1929年洛陽城東北後営村<br>42×41 | | |
| 95 | | 魯廣達 | 「侍中中領軍…」 | | | | | | 『陳書』31.全陪文11<br>撰:江淹 |
| 96 | △ | 開皇十年□君 | | 開皇10(590)4月 | 60歳 | | 1966-75年河南安陽梅園荘北地<br>磚31.5×16.5 | | 考古学報1981-3 |
| 97 | →<br>△ | 王曜*孟暉 | 北斉→隋<br>「隋故平西将軍…」 | 開皇10(590)8/6<br>開皇10(590) | 88歳<br>并州□原 | 常山郷之別舎<br>安陽西北白素曲 | 河南安陽県<br>41.5×41.5 | 祖:(空欄)<br>父:(空欄) | |
| 98 | →◎<br>△ | 元仁宗 | 隋<br>「大隋東宮右親衛…」 | 開皇10(590)11月<br>開皇10(590)12/2 | 27歳<br>河南洛陽 | 長安県帰化郷弘徳坊宅<br>殯於大興県洪固郷永寿里李林東権葬 | 陝西長安県<br>28.4×28.4 | 祖:《魏晉陽王》 | |
| 99 | ▲ | 梁炁 | | 開皇10(590) | | | 1990年西安市西郊<br>磚17×17×6 | | 考古与文物1991-4 |
| 100 | △ | 張景略 | 魏→<br>「大隋車騎秘書郎…」 | 開皇11(591)正/6<br>開皇11(591)正/26 | 68歳<br>燕州上谷 | 相州安陽河北白素郷 | 清乾_年間,河南安陽県<br>42.6×42.6 | 祖:《北魏》<br>父: | 祖:第一領民酋長 |
| 101 | ◎<br>▲ | 韓景*延景 | 「大隋相州臨漳県…」 | 開皇9(589)12/10<br>開皇11(591)3/2 | 72歳<br>京兆長安 | 私第<br>始平原 | 1980年咸陽市渭城郷<br>不明 | 祖:同<br>父:愔 | |
| 102 | △ | 開皇十一年□君 | | 開皇11(591)7/14 | | | 1966-75年河南安陽梅園荘北地<br>磚38×17 | | 考古学報1981-3<br>96と同時出土 |
| (103) | →※ | 寇奉叔妻辛憐 | 「隋故使持節…」 | 開皇6(586)9/18<br>開皇11(591)8/12 | 隴西 | 第<br>合葬於惠公之墓 | 河南洛陽<br>51×51 | 祖:雙欸<br>父:賢《北周?》 | |
| 104 | ⇒※ | 寇郁*遵遷 | 「梁州史君寇儁之子」 | 早卒<br>開皇11(591)11/6 | | 葬安改葬于大墓 | 河南洛陽<br>36.5×37 | 父:寇儁 | 103と同時出土<br>大墓は宣穆公墓 |
| 105 | ◎ | 裴子通*叔霊<br>妻:元氏 | 北斉<br>「斉驃騎大将軍…」 | 開皇10(590)4/26<br>開皇11(591)11/7 | 81歳<br>河東聞喜 | 陽城郷之豊義里<br>合葬於汾互舊塋 | 1992年山西運城地区<br>58×58×10 | 祖:保欸<br>父:良 | |
| 106 | →※<br>△ | 爾朱敞*乾羅<br>隋55.北48 | 北周→隋<br>「大隋故上開府…」 | 開皇10(590)4/29<br>開皇10(590)11/24 | 72歳<br>秀容 | 懐州智津里第(河内)<br>霊山 | 1930年洛陽北張凹村<br>69×69 | 祖:假黄鉞…<br>父:博陵王 | |
| 107 | ◎ | 楊胤*文朗 | 「隋使持節…」 | 開皇10(590)8/24<br>開皇11(591)11/24 | 54歳<br>恒農華陰 | 第<br>華陰東原 | 陝西華陰県<br>47×47 | 祖:鈞<br>父:倹 | |
| 108 | →<br>▲ | 趙悳*世摸<br>隋70.北41 | 北斉→北周→隋 | 開皇10(590)10/29<br>開皇11(591)11/24 | 金城郡 | 陽州大興県墺洪固郷所<br>雍州大興県墺洪固郷所 | 2004年西安市長安県韋曲東洪固郷<br>43×42 | 父:敬 | |
| 109 | →※<br>△ | 爾朱端*休晶 | 北周→隋<br>「隋故車騎将軍…」 | 開皇11(591)正/<br>開皇11(591)11/24 | 45歳<br>秀容 | 京師静安里<br>遷窆于河陰旧塋 | 1930年洛陽城北張凹村<br>44×43.5 | 祖:彦(博陵王)<br>父:敞 | 末尾に呪文あり |
| 110 | ⇒◎ | 楊禧*文邕 | 北周Ⅱ<br>「周故開府儀同…」 | 北周建徳6(577)5/18<br>開皇11(591)11/24 | 恒農華陰 | 京師<br>帰葬於華陰県東原 | 陝西華陰県<br>52×51.5 | 祖:鈞<br>父:倹 | |
| 111 | →<br>▲ | 王猛*子猛 | 北周→隋<br>「大隋開府…」 | 開皇10(590)11/7<br>開皇11(591)11/24 | 30歳<br>太原晉陽 | 鎮所<br>大興県高陽原 | 2005年西安市長安県郭杜鎮場村<br>34×34.5 | 祖:鷺<br>父:操 | |
| 112 | ◎ | 鄒道育<br>妻:劉氏 | 「儀同大将…」(蓋) | 開皇11(591)12/9<br>開皇11(591)12/26 | 62歳<br>祭陽 | 私第<br>夫人劉氏合葬於祭陽之山 | 河南省河陰県出土<br>56×55 | | |
| 113 | ⇒<br>▲ | 呂思禮<br>妻:辛氏<br>周38.北70 | 西魏Ⅱ<br>「魏故七兵尚書…」 | 西魏大統4(538)正月<br>西魏大統5(538)9月<br>開皇12(592)正/15 | 38歳<br>東平壽張 | 蒲州蒲坂里<br>長安清徳里第<br>合葬於高陽原 | 2003年西安市長安区郭杜鎮 | 祖:曦《北魏》<br>父:遠 | 考古与文物2004-6<br>未盗掘 |
| 114 | ⇒◎<br>△ | 楊済*廣度 | 北斉Ⅱ | 北斉天統4(568)<br>開皇12(592)正/15 | 73歳<br>陝州弘農 | 懐徳里<br>黄門橋西洛水之北 | 近年河南洛陽<br>40×40 | 祖:威<br>父:貴 | |
| 115 | →◎<br>▲ | 郁久閭可婁頭 | 北周→隋 | 開皇10(590)2/22<br>開皇12(592)正/26 | 62歳<br>京兆長安 | 廟州郎舎<br>遷葬於京兆之高陽原 | 2005年西安市長安県<br>52×52×7 | 祖:賀根吐豆弗俟利弗<br>父:臣明吐豆弗 | |
| 116 | | 呂道貴*希玄<br>妻:張氏<br>隋79.北80 | 北周→隋<br>「儀同三司…」 | 開皇12(592)2/8 | 79歳<br>東平 | 第<br>與前妻趙氏葬於歴□西南寶公山北 | 2001年山東済南市八路緯四路<br>57×57×13 | 祖 | 文物2005-1 |
| 117 | | 呂倉*霊昊<br>妻:高氏 | | 開皇12(592)2/8 | 元是東平 | 與妻高氏合葬於歴城南寶公山北 | 2001年山東済南市八路緯四路<br>36×31×9 | | 文物2005-1<br>呂道貴の兄 |
| 118 | | 苟舜才*仲堪<br>妻:劉氏 | 生:東魏536年<br>「大隋逸士…」 | 開皇12(592)4/5<br>開皇12(592) | 57歳<br>汲郡山陽 | 里舎<br>合葬於平昌縣之西南廿五里 | 1998年山東省臨沂県蘆家郷<br>48×48×17 | 祖:《北魏》<br>父:《北斉》 | |
| 119 | ⇒×<br>△ | 趙鮐*僧寿<br>妻:郭氏 | 北斉Ⅱ<br>「斉漢陽公…」 | 北斉天保9(558)10/13<br>妻:開皇8(588)3/6<br>開皇12(592)9/21 | 63歳<br>隴西天水<br>妻:太原 | 漁陽郡之官舎<br>鄴県<br>合葬於洛陽縣北邙山信義郷信義里 | 河南洛陽<br>48×47 | 祖:逸《魏》<br>父:回《魏》 | |
| 120 | | 羊烈妻長孫敬顔 | 「斉義州羊使君…」 | 開皇11(591)12/22<br>開皇11(591)10/30 | 65歳<br>河南洛陽 | 亳州太陽里<br>宮山之陽 | 山東新泰市羊流鎮<br>59×59×9 | 祖:稚《魏》<br>父:子彦 | 羊烈墓出土 |
| 121 | ◎ | 李聞*僧法 | | 開皇11(591)<br>開皇12(592)11/7 | 82歳<br>博陵安平 | 家<br>安平城西北常安郷仁義里 | 河北安平<br>42.7×42.7 | | |
| 122 | | 劉衆 | 「大隋開皇…」 | 開皇12(592)11/18 | 99歳<br>瀛州永寧 | | 2000年河北清苑県白固村西南<br>40×40×10 | | 文物春秋2004-1<br>仏教信者 |
| 123 | ⇒ | 虞弘*莫潘 | 北周Ⅱ<br>「大隋故儀…」(蓋) | 北周大象末(579-581)<br>開皇12(592)1/18 | 59歳<br>魚国尉紇驒城 | 并第<br>唐叔虞墳東三里 | 1999年山西太原市晋源区王郭村出土<br>73×73×7.5 | 祖:□奴栖<br>父:君陁 | 文物2001-1,2002-6<br>夫人墓誌同時出土 |
| 124 | ▲ | 呂武*中礼<br>妻:宇文氏 | 北周→隋<br>「大隋大都督…」 | 開皇12(592)<br>開皇12(592)11/19 | 44歳<br>天水 | 行所<br>合葬大興県安寧郷(夫人先亡) | 1957年西安市東郊韓森<br>45×45×10 | 祖:智<br>父:真 | |
| 125 | ⇒<br>△ | 李欽*文安<br>妻:張氏 | 東魏紇璘 | 東魏天平2(535)10/7<br>開皇12(592)12/13 | 趙国栢仁 | 陰潼里<br>合葬於先君塋西二里 | 洛陽<br>43×43 | 祖:善愔<br>父:僧顗 | |
| 126 | | □遷 | 「大隋故綏□…」 | 開皇12(592)11/17<br>開皇12(592)12/14 | 92歳 | 静□郷寧化里 | 河北霊寿県<br>67×57 | | |
| 127 | △ | 蘇暾*士遊 | 「隋故參軍事…」 | 開皇12(592)11/16<br>開皇13(593)2/14 | 54歳<br>定州中山無極 | 相州相縣静民郷里之第<br>遷於相州北十里鄴縣白素郷 | 河南安陽<br>40×40 | 祖:文城公<br>父:第一領民酋長 | |
| 128 | | 叱奴輝*延輝<br>妻:賀遂氏 | 「維大隋開皇…」 | 北周天和之年<br>開皇13(593)11/13 | 西夏州 | 権殮水□南原<br>遷葬於砂地南山之陽,西北去夏州統萬城十里墳穴 | 陝西省榆林市靖辺県 | | |
| 129 | ▲ | 李椿*牟屯 | 北周→隋<br>「大隋驃騎…」 | 開皇13(593)正/27<br>開皇13(593)12/6 | 50歳<br>隴西敦煌 | 京師之永吉里第<br>孝義里地 | 1984年西安市東郊慶華<br>70×71 | 祖:永<br>父:弼 | |
| (130) | | 輔顕秩妻買氏 | | 開皇13(593)12/6 | | | 河北正定県<br>磚29×14 | | |
| 131 | ◎ | 陶蛮朗 | 領→北斉→隋<br>「故斉戎招将軍…」 | 開皇10(590)12/26<br>開皇14(594)正/25 | 65歳<br>丹陽 | 宅<br>遷葬肥凌之野,仙嶺之東 | 安徽省淮南頼山東<br>69×38 | 祖:<br>父:《北斉》 | |
| 132 | △ | 惠雲(俗姓賈氏) | 梁(建鄴生)→?<br>「大隋大尉…」 | 開皇14(594)3/12 | | 河南洛陽 | | 祖:懐徳<br>父:成《魏→梁》 | 法師 |
| 133 | →◎<br>▲ | 王臺*龍臺 | 北周→隋<br>「隋故車騎将軍…」 | 開皇14(594)3/15 | 43歳<br>京兆新豊 | 京邑<br>義成郷北原 | 西安市長安県<br>51×51 | 祖:興<br>父:陶仁 | |
| 134 | ▲ | 梁龕 | | 開皇14(594)4/15 | | 大興県安道郷常楽坊民 | 西安市長安県<br>磚34×18 | | |
| (135) | | 董季禄妻荀令 | | 開皇14(594)5/20 | | | 河北邢台地区<br>磚29×15×5.4 | | |
| 136 | ⇒<br>△ | 侯肇*永先<br>妻:古氏 | 「大隋開皇十四…」 | 開皇初<br>北周建徳6(577)<br>開皇14(594)10/23 | 72歳<br>上谷 | 河南宅<br>本第<br>合葬於洛城西北一十三里 | 洛陽出土<br>41.5×42.5 | 祖:春<br>父:念 | |

# 隋開皇年間における官僚の長安・洛陽居住（室山）

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 137 | ⇒<br>△ | □敬*思禮<br>妻:堇氏 | | 北斉天保8(557)<br>妻:開皇7(587)7/2<br>開皇14(594)11/12 | 67歳<br>高平 | 鄒県<br>本宅<br>合葬於洛城之西五里 | 2002年洛陽白馬寺鎮<br>50×51×7 | 祖:遵明《魏》<br>父:麟駒 | |
| 138 | ⇒ | 趙君 | 北周‖ | 北周武平3(572)7/20<br>開皇14(594) | 67歳<br>趙郡<br>長子城西北十里 | | 山西長子<br>43×42 | 祖:安香<br>父:文儀 | |
| 139 | ⇒◎ | 崔大善*民漪 | 「大隋伯陽…」 | 開皇7(587)2/10<br>開皇8(588)2/20<br>開皇15(595)2/7 | 17歳<br>博陵安平 | 陝州之境<br>権殯平原郷土望里<br>舊塋 | 1998年河北平山県両河郷西岳村<br>57×58×11 | 祖:猷《北周》<br>父:仲方 | |
| 140 | △ | 韻智孫*霊哲 | 北斉→隋 | 開皇14(594)9/8<br>開皇15(595)8/20 | 69歳<br>亳州州魯郡 | 儒林郷<br>洛城西北青風郷 | 2000年河南洛陽<br>44×43.8 | 祖:乾育 | |
| 141 | | 梅淵*文叡<br>妻:李氏 | 北斉→隋<br>「大隋隰城…」 | 開皇15(595)8/23 | 47歳<br>九江壽春 | 合葬 | 1989年山西省汾陽県城関鎮<br>52×52×12 | 祖:遜<br>父:洽 | 文物1992-10<br>蛮姓? |
| 142 | ⇒<br>▲ | 肇資*客郷<br>妻:陳氏 | 北魏→北周‖<br>「周驃騎将軍…」 | 北周天和4(569)12月<br>妻:北周保定元(561)<br>開皇15(595)10/24 | 55歳<br>張液永平<br>妻:許昌 | 京第<br>雍州始平縣孝義郷永豊里 | 1794年陝西省武功県南郷<br>52.3×51.7 | 祖:幼文<br>父:天慶 | |
| 143 | ⇒<br>△ | 謝岳*栄宗<br>妻:關氏 | 北魏→北斉→北周→隋 | 開皇3(583)<br>開皇15(595)10/24 | 93歳<br>陳郡 | 胡公里<br>與夫人閻氏合葬邙山之陽 | 洛陽<br>49×49 | 祖:慶《魏》<br>父:愔 | |
| (144) | ◎ | 脩梵(張氏) | 「故比丘尼」 | 開皇13(593)8/23 | 91歳<br>清河東武城 | 俗宅<br>石室 | 清代,山東益都<br>46×45.5 | 父:烈 | 吉子撰 |
| 145 | | 燕孝霊*虔卑 | | 開皇14(594)<br>開皇15(595)10/24 | 64歳<br>遼東 | 城陽之郷渭川之里<br>霞山之北州城之南 | 山東益都<br>60.5×35 | 祖:道<br>父:□ | |
| 146 | ⇒<br>▲ | 段威*殺鬼<br>妻:劉氏 | 北魏→北周‖ | 北周建徳4(575)7/17<br>妻:開皇10(590)4/13<br>開皇15(595)10/24 | 67歳<br>北海期原 | 長安城之私第<br>合葬於洪瀆川奉賢郷大和里 | 1953年咸陽市底張湾<br>69×69 | 父:寿 | 文物参考資料1954-10<br>子らが合葬させる<br>子は段文振 |
| 147 | | 張君 | | 開皇15(595)10/24 | 崇福郷拓信里 | | 河北無極県<br>磚 | | |
| 148 | | 盧胄 | 「隋故驃騎将軍…」 | 開皇15(595)11/10 | 范陽涿州 | | 42×42 | | 字摩滅 |
| 149 | | 張盛*永興 | 「隋故征虜将軍…」 | 開皇14(594)正/15<br>妻:開皇6(586)<br>開皇15(595)11/18 | 93歳<br>南陽白水<br>妻:南徐州 | 相州安陽縣修仁郷之第<br>妻:霊泉縣西斗山之第<br>與先君同葬於相州安陽城北五里白素郷 | 1959年河南安陽市豫北<br>48×48 | 祖:原<br>父:済 | |
| 150 | ⇒<br>▲ | 何雄*沙弥 | 西魏→<br>「大隋上柱国…」 | 開皇16(596)2/7 | 50歳前後?<br>荊州江陵県都郷 | 雍州長安県龍門郷阿城里 | 2005年西安市長安県<br>28×28.5 | | |
| 151 | ◎<br>△ | 張協*小和 | | 開皇11(591)11/1<br>開皇16(596)2/19 | 49歳<br>河南崇信郷建徳里 | 私家<br>華源郷之南郊,張方営之北野 | 河南洛陽<br>56.6×56 | 祖:□<br>父:明《北斉》 | |
| 152 | ▲ | 羅達*普達 | 北周→隋<br>「大隋使持節…」 | 開皇16(596)8/29 | 61歳<br>代郡桑乾 | 京第<br>大興県瀘川郷長楽里白鹿原 | 1982年西安市東郊郭家灘西北<br>51×50×10 | 祖:保《魏》<br>父:淵《北周》 | 考古与文物1984-6<br>考古与文物1986-5 |
| 153 | ◎<br>△ | 元伏和*伏和<br>妻:穆氏 | 北周→隋 | 開皇14(594)<br>開皇16(596)11/11 | 76歳<br>河南洛陽 | 里舎<br>與夫人穆氏合葬邙山之陽 | 1949年河南洛陽<br>60×60×12 | 祖:瓊<br>父:孔雀 | |
| 154 | ⇒<br>△ | 鄭平*徳□ | 北斉‖<br>「魏故鎮遠将軍…」 | 北斉河清4(565)<br>開皇16(596) | 寄□□□□ | | 1956年河南安陽城西南十八里 | | 字摩滅 |
| (155) | ▲ | 張通妻陶貴 | 「大将軍昌楽…」 | 開皇17(597)3/21<br>開皇17(597)3/26 | 55歳<br>丹陽丹陽 | 長安県之龍首郷 | 清代,陝西咸陽県<br>38.5×38 | 祖:恪<br>父:暹 | |
| 156 | ▲ | 趙長衛 | | 開皇17(597)4/19 | 雍州長安県脩仁郷 | | 1955年西安市西郊土門<br>磚34.5×17.3 | | |
| 157 | ▲ | 賀若嵩*陁羅 | 北周→隋<br>「大随上儀同…」 | 開皇17(597)<br>開皇17(597) | 58歳<br>為雍州長安人 | 第<br>長安県龍首郷 | 陝西西安<br>28×28 | 曽祖:伏連<br>父:統《東魏→西魏》 | |
| 158 | ▲ | 孫観*元照<br>妻:王氏 | 西魏→北周→隋<br>「大隋梁武陵王…」 | 開皇12(592)11/12<br>開皇17(597)8/16 | 62歳<br>南徐州晉陵郡曲阿県高陵郷邑下里<br>妻:并州太原 | 邙州巽壌<br>同遷萬年之宅兆<br>妻:乃改殯高陽,致合棺之承禮 | 2005年西安市長安県郭杜鎮<br>33×34 | 孫権の後裔<br>祖:《梁→西魏》 | |
| 159 | | 斛律徹*智通 | 北周→隋<br>「故崇国公墓誌」 | 開皇15(595)11/20<br>開皇17(597)8/17 | 33歳<br>朔州狄郡 | 京師<br>并城之北十里 | 1980年山西太原市北郊区沙溝村<br>57×56 | 祖:明月<br>父:武都《北周》 | 文物1992-10 |
| 160 | ⇒<br>▲ | 劉紹*方達<br>妻:郭氏 | 「大隋威烈将軍…」 | 開皇3(583)10/1<br>妻:開皇17(597)8/25<br>開皇17(597)8/25 | 57歳<br>彭城呂県<br>妻:太原 | 私宅<br>合葬於大興県高陽原 | 西安市長安県豆引郷<br>44.5×43.5 | 祖:寔《南斉》<br>父:賢《梁》 | |
| 161 | ▲ | 董夫人 | 「美人董人墓誌銘」 | 開皇17(597)7/14<br>開皇17(597)10/12 | 19歳<br>汝州慮宜県 | 仁寿宮山第<br>龍首原 | 清代,陝西西安<br>52×52 | 祖:佛子《北斉》<br>父:後進 | 撰:蜀王(楊秀) |
| 162 | △ | 染寂*山行 | 北周→隋<br>「隋陽城県令…」 | 開皇16(596)8/30<br>開皇17(597)1/12 | 65歳<br>本涇州安定烏氏 | 陽城県之府<br>洛州河南県純風郷節婦里 | 河南洛陽<br>58×61 | 祖:悦<br>父:嵩景《北魏→北斉》 | |
| (163) | | 虞弘妻魏氏 | | 開皇17(597)<br>開皇18(598)?11/7 | | | 1999年山西太原市晋源区王郭村<br>61×?×8(5つに分解) | | 字摩滅,破壊 |
| 164 | | 張延敬 | | 開皇18(598)正/12 | | | 河北正定県<br>磚26×13 | | |
| (165) | ◎<br>△ | 段君妻元渠姨 | 北斉→北周→隋<br>「斉故左丞相…」 | 開皇17(597)<br>開皇18(598)正/18 | 82歳<br>河南洛陽 | 長安<br>帰葬舊塋 | 洛陽<br>44×44.3 | 夫:段韶《北斉》 | |
| 166 | ▲ | 劉安*仁遠 | 北斉→北周→隋<br>「□□儀同三司…」 | 開皇18(598)正/24 | 瀛州河間楽城 | 京師□□洪固郷貴里 | 1980年代西安市長安洪固郷<br>35.5×33 | 祖:提<br>父:豊《北斉》 | |
| 167 | △ | 劉明*世榮<br>妻:梁氏 | 「奉車都尉…」 | 妻:開皇18(598)<br>開皇18(598)5/2 | 徐州彭城 | 合葬於□□□□ | 河南洛陽<br>40.2×39.1 | 祖:徳<br>父:恩 | 考古学報1956-3 |
| 168 | ◎ | 李盛*雙顕<br>妻:劉氏 | 魏→北斉<br>「斉故東周県令…」 | 開皇14(594)<br>開皇18(598)10/12 | 67歳<br>景州魯城 | 里舎<br>與夫人劉氏合葬於魯城縣西南四里 | 河北省滄県<br>45.5×42.5 | 祖:婆<br>父:醜 | |
| 169 | ◎ | 宋睦*思和 | | 開皇18(598)10/12 | 齊州廣昌県五龍郷 | 五龍城西南六里 | 山西平遥県<br>24×52.8 | 祖:遊《北魏》<br>父:通　兄:法祖 | |
| 170 | ◎<br>▲ | 韋壽*世齢 | 北周→隋<br>「大隋使持節…」 | 開皇12(592)11/29<br>開皇18(598)11/11 | 京兆杜陵 | | 近年西安南郊<br>不明 | | |
| 171 | ◎ | □徹*仲達 | | 開皇18(598) | 77歳<br>韓州黎城 | 土里<br>改葬大墓 | 山西省黎城県<br>41×42 | 祖:小<br>父:生 | 宋姓か? |
| (172) | →◎夫 | 李君妻王沙彌 | 「斉故儀同三司…」 | 開皇10(590)4/19<br>開皇18(598)12/13 | 54歳<br>太原晉陽 | 邇車城<br>祔於舊塋 | 2002年河北賛皇<br>不明 | 祖:遵業《北魏》<br>父:士逸《北斉》 | |
| (173) | →◎夫 | 封孝琰妻崔婁訶 | 「儀同三司廣州…」 | 開皇19(599)6/18<br>開皇19(599)11/12 | 72歳<br>博陵安平 | 里舎<br>祔葬於舊塋 | 1947年河北衡水地区景県城東南封氏墓<br>40.2×42.5×9 | 祖:渭<br>父:叔業 | 文物春秋1990-4 |
| 174 | | 劉睦*元墜 | 「隋故處士…」 | 開皇19(599)閏/3<br>開皇19(599)11/23 | 66歳<br>景州長蘆 | 里舎<br>此所 | 1949年河北滄州<br>38×38 | | |
| (175) | | 菟徳讃妻杜□生 | | 開皇19(599)12/23<br>開皇19(599) | | 里内東王左村<br>殯於村西二里北 | 河北臨_<br>磚9寸5分×4寸5分半(ママ) | | |
| 176 | ▲ | 独孤羅*羅仁 | 北魏→北周→隋<br>「大隋使持節…」 | 開皇19(599)2/9<br>開皇20(600)2/14 | 66歳<br>雲内盛楽 | 位<br>雍州涇陽縣洪濱原奉賢郷静民里 | 1953年陝西咸陽市東北底張湾原上<br>107×106 | 大父:恭公<br>父:信《北周》 | 考古学報1953-3<br>独孤皇后の長兄 |
| 177 | →◎ | 楊欽*長欽 | 北周→隋<br>「大隋使持節…」 | 開皇19(599)3/29<br>開皇20(600)2/14 | 64歳<br>弘農華陰 | 長安県醴成郷仁訓里宅<br>華州華陰県潼関郷通霊里之塋 | 1977年陝西省華陰県東原<br>69×69 | 祖:颺<br>父:叉 | 贈官・諡・「禮也」 |
| 178 | →<br>▲ | 楊文愿*阿鼓 | | 開皇20(600)2/2<br>開皇20(600)2/25 | 弘農華陰 | 仁寿宮宅<br>雍州大興県弘固郷 | 2002年西安市長安県洪固郷<br>24.8×17.5 | | 「地主卒洪」 |
| 179 | | 王幹*徳貞 | 北周→隋 | 開皇17(597)正/2<br>開皇20(600)3/13 | 55歳<br>并州太原 | 家<br>遷葬于亳州城北小黄県純宜郷諷水陽二里 | 1973年安徽省亳県 | 祖:伯<br>父:興 | 蓋裏に分刻 |
| 180 | ⇒ | 謝成*令就<br>妻:李氏 | 北斉‖ | 北斉天統3(567)5月<br>開皇20(600)4/3 | 74歳<br>南陽大黄 | 第<br>與夫人李氏合葬於壺関城北冊五里大王嶺右草陽山左 | 山西壺関県<br>54×52 | 祖:弗《北魏》<br>父:阿 | |
| 181 | ⇒<br>▲ | 席淵*景淵 | 北周‖ | 北周建徳4(575)正月<br>開皇20(600)8/27 | 56歳<br>安定臨涇 | 王壁<br>大興城南神和之原 | 近年西安市長安県神禾原<br>32×32 | 祖:崇《魏》<br>父:挙 | 隋墓誌の席氏は西安出土 |
| 182 | △ | 劉多*景豊 | 「大隋處仕…」(蓋) | 開皇20(600)7/5<br>開皇20(600)10/17 | 54歳<br>弘農華陰 | 河南県儒林郷崇訓里<br>閑居郷舊塋之際 | 1928年洛陽東北大馬村西陵<br>50.5×51 | 祖:遠<br>父:薤 | |
| 183 | △ | 馬稚*老生<br>妻:張氏 | 「大隋…」 | 開皇20(600)11/10 | 75歳<br>扶風郿邑 | 平楽郷廣世里,殯於正寝<br>合葬于洛陽三市之西南八里 | 河南洛陽<br>52×51×7 | 祖:顕<br>父:寶 | |
| 184 | ⇒ | 買善*徹道<br>妻:董氏 | 北斉‖<br>「営州故鎮…」(蓋) | 北斉大寧年(561-62)<br>北斉武平年(570-576)<br>開皇20(600)11/11 | 62歳<br>西涼武威<br>妻:臨西 | 戦没<br>合葬空龍山西狼河左 | 1997年遼寧省朝陽市<br>50×50×13 | 祖:訶《北魏》<br>父:興《北魏》 | |
| 185 | | 臧質*弘道 | 「大隋開府儀同…」 | 開皇20(600)7/2<br>開皇20(600)12/4 | 67歳<br>青州楽安 | 家<br>今啓葬豆蒼之陽 | 清代,四川奉節<br>円首碑形100×51 | 祖:《北斉》<br>父: | |
| 186 | ▲? | 陳翊*孟和 | 梁→北周→陳→隋<br>「前陳伏波将軍…」 | 開皇20(600)9/24<br>開皇20(600)12/18 | 76歳<br>潁川許昌 | 檀渓里<br>帰葬高陽郷之舊山 | 不明<br>不明 | 祖:僧亮《南斉》<br>父:耿《前梁儀同》 | 子孫詳細に記載<br>撰:周彪 |

墓誌の記載から，抽出した事項は以下の通りである。なお表中の空欄は墓誌に記載がないことを示す。①墓主姓名と字，合葬者。②史伝の有無。③入隋経路（墓主がどのような政権を経緯して隋朝に入ったのか）。「‖」はそこで死亡していることを示す。東西政権の判断が俄に付かない場合は一時的に「北朝」とする。なお入隋後に仕官していない場合も含む。④墓誌標題冒頭語句。主として墓誌冒頭を記すが，標題がなく墓誌蓋に記載されている場合は（蓋）として記載。⑤⑥ 死亡年月日と埋葬年月。墓誌には干支記載の誤りも多数認められるが，本表では記載に準じ修正せず。⑦享年。⑧墓誌記載の本貫地。⑨死亡地。⑩埋葬地。⑪墓誌出土地（『隋代墓誌銘彙考』記載に準ず）。⑫墓誌スケール（拓本と実石の測量区別はせず）。⑬墓誌記載の祖先（何世代も遡る場合は，基本的に祖・父。任官王朝がわかる場合は《》に記載）。⑭備考。⑮分析の利便のために記号で表示する事項は，

◎本籍地埋葬（妻合葬の場合は，夫の本籍。なお，本貫（本籍）と墓葬・墓誌出地点は，完全には一致しない場合があるが，もとより地望は郡・県名で記され，決してその土地のある地点を厳密に確定するものではない。したがって，本稿における本貫（本籍）地は，郡単位で捉えることとする）。

→遷葬，⇒長期間経過後の遷葬。

△洛陽埋葬（現段階では本籍地埋葬を明確にするために，滎陽郡，弘農郡は含めない）。

▲長安埋葬（北周・隋帝陵のある今の咸陽一帯を含む。馮翊郡は含めない）。

※は，墓誌記載本貫地ではないが，北魏後期において一族墓を形成していた地域に埋葬したことを示す。

なお，官僚の卒地を見るためならば女性墓誌は不必要であるが，先逝した夫の墓の所在と，合葬する場合の葬地の選択肢（基本的には夫の墓に遷葬するが，夫を改葬し新墓を造ることもある）を見る手がかりとなることから，すべて取り上げた（女性単独墓誌は，墓誌番号に（）をして区別する）。また墓葬から出土したことが不明な伝世品のような類の磚質墓誌のうち，10数字前後といった簡略的な内容のものは，権葬（正式埋葬までの仮埋葬）あるいは合葬までの目印的な役割を持つ可能性もあり注意を要するが，磚と石という墓誌の材質の違いについて未だ確かな考証に至らず，現時点では区別しない。

全体をみるに（以下，〈〉内数字は表中の墓誌番号を指す），開皇年間の墓誌183例のうち，葬地・出土地の手がかりのない〈6〉〈25〉〈31〉〈33〉〈91〉を除くと，長安近郊への埋葬と洛陽近郊の埋葬が多数を占めるが（女性を除き約80数例），同時に本籍地埋葬も見られる（女性を除き約40数例）。また長期間経過後の遷葬（およそ10年以上間隔の空いた遷葬⇒）が多くみられることが注目される。

では，北人（旧北朝下官僚）と南人（旧南朝下官僚）に分けて詳しくみていこう。

## 二 北人墓の動き

### 1 本貫と洛陽･長安

北周の北斉併合後，鄴では鄴城と邑居が破壊され，北斉の皇族は基本的に連行された長安で埋葬される。また北斉で拉致されて埋葬された北周官僚を，北周領土内に帰葬することも見られる。さらに大象元年（579）に北周宣帝によって洛陽修復の詔（『周書』巻７）が出されて以後，洛陽への埋葬例が始まる。一方で山東氏族は引き続き本貫へ帰葬をしつづけている［室山2007①］。

北周政権をそのまま引き継いだ隋王朝の場合，上記のような劇的な領土の変化は起こらず，また隋政権が北魏のように何らかの埋葬地規制を行った様子も伺えない。いま開皇元年（581）前後から開皇年間内に死亡した北人官僚（墓誌標題に隋の任官時官職或いは死後に贈られた官職が記載されている）の葬地は，本貫地と都長安と洛陽とに大別される。

山東に本貫を持つ氏族は本貫地埋葬が確認できる（〈2〉,〈42〉〈43〉〈51〉〈52〉〈85〉〈89〉〈121〉）。これらの墓主は，概ねもとは北斉政権下にいたことが確認できるので，彼らは北斉時代から郷里との関係を保持し得ていたと思われる。また弘農華陰を本貫にもつ楊氏一族は，北周の北斉併合後すぐに，北斉で捕捉されて鄴で死亡した楊敷を華陰へ帰葬し（『周書』巻34），引き続きそこへ埋葬している（〈29〉〈59：妻合葬〉〈72：妻合葬〉〈82〉〈107〉〈177〉）。

拓跋元氏は，北魏時期に洛陽で死亡した元顥（太和24年洛陽死亡）と元鈞（永安2年洛陽死亡）を「皇居徙鄴，墳陵遷改」として鄴に改葬するなど，東魏北斉において鄴は，皇帝陵及び元氏一族墓所在地として機能していたと考えられるが［室山2007①］，開皇年間では本貫をもつ洛陽に埋葬する（〈84：妻合葬〉〈153〉）。ただし長安に埋葬される場合もあり〈98〉，元氏墓誌の少なさから，現時点では判然としないが，妻より先逝した西河の人宋忻が，妻韋氏の家族墓近くに埋葬されている例〈69〉などもあり，血縁関係による特別な状況があったのかもしれない。

本貫と異なる洛陽・長安埋葬は，本籍地埋葬より多数みられる（▲△）。だが洛陽の場合は，既に前代からの一族墓が存在している氏族もある。上谷寇氏（〈14：妻合葬〉〈15〉,〈103：妻合葬〉〈104〉）は，上谷昌平を本

貫に持つも仮託の可能性が強く，北魏時期に洛陽に本拠地をもつと思われるので［室山2007②］，これは本拠地埋葬と見なせる。

爾朱氏は秀容を本貫とするが，北魏後期に社会を混乱に陥らせ，結果誅殺された爾朱榮をはじめとして後に追贈を受け（『魏書』巻74・75），爾朱紹・爾朱襲は北魏永安2年（529）に洛陽の「司空公之塋」（両者の父，爾朱買珍墓）に埋葬されている（「爾朱紹墓誌」「爾朱襲墓誌」，趙超『漢魏南北朝墓誌彙編』天津古籍出版社，2008年修訂版）。開皇年間の爾朱氏の3墓誌〈87〉〈106〉〈109〉は同所から出土しているが，爾朱端墓誌〈109〉にある「河陰旧塋」とはこのような爾朱氏の一族墓を指すと思われる。また源剛〈24〉は，北魏建国の功臣源賀（北族，金陵陪葬）の血筋で，父纂は河陰で害に遇い（『魏書』巻41源賀伝附源子雍）そこに埋葬されたはずである。

このような氏族には，漢族本貫に仮託した北族や恩倖，外戚も多く含まれると思われ，隋の洛陽埋葬をみるためには，北魏の一族墓の所在から考慮する必要がある。すなわち，彼らが洛陽を選択したのは，北魏時の一族墓（曽祖や祖・父の墓）の存在がその理由の一つであり，そうであるならば，隋代になって新たに洛陽埋葬を行った氏族とは区別しておく必要があるだろう。また長安についても，西魏・北周時期に祖先が長安埋葬されているが故にそこへ埋葬されている場合もあり，判断には慎重を要する。これについては，北朝すべての墓誌・墓葬と文献を対象に，様々な要素（婚姻関係や任官地など）からの照合が有効な手だての一つであると考えるが，緻密な作業と分析が不可欠であるため，誌面の都合上，いまは寇氏・爾朱氏・源氏の例を示すにとどめ，すべての氏族に対する照合と考察は別の機会としたい。

## 2 長期間経過後の遷葬

ところで，前引爾朱氏墓誌〈87〉の墓主は，北魏永安3年（530）に洛陽で死亡し，約59年後の開皇9（589）に埋葬されている（考証に従えば，爾朱栄の従弟爾朱彦伯の可能性があるという。彦伯は『魏書』巻75によれば，弟の世隆とともに閶闔門外で斬殺された）。また源剛〈24〉も，北斉武定5（547）に鄴で死亡しそこに埋葬されたのを，約36年後の開皇3（583）年に洛陽の「旧塋」に改葬されている。源剛の卒地「河南公之旧塋」の河南公は，いま史書に確認できないが，同じく纂の子の源雄は，北斉から北周へ入り，北斉・陳の討伐に加わって功績を挙げているから（『隋書』巻39源雄伝），源剛の遷葬も隋下の源氏一族が行ったと考えられる。

このような長期間経過後の遷葬は，頻繁に見られる（表1⇒）。このなかで本貫への埋葬例を列挙すると，張叔〈11〉，王軌〈21〉，崔仲方妻李麗儀〈35〉，李惠〈41〉，李敬族夫妻〈42・43〉，淳于倹〈67〉，楊叉〈71〉，賈崧〈74〉，王昌〈77〉，王瑱〈78〉，楊景〈82〉，裴鴻〈88〉，楊勰〈110〉，楊済〈114〉と，多数見られることは注目に値する。このうち王瑱〈78〉は王昌〈77〉の子で同年同日（開皇9年10月13日）に埋葬，その墓葬と同じ場所（西安市灞橋区）に北朝末から隋までの6座の遷葬墓がある[4]。このような遷葬が行われる要因として，まずは北周の北斉併合（577年）による領地回復後の本貫帰葬［室山2007①］が，引き続き行われていることが考えられよう。また，子が顕貴となったため，既に死亡している祖父に追贈が行われたことを契機として遷葬（新しい身分に応じた改葬）される場合がある。東魏・北斉の鄴で死亡した李敬族夫妻〈42・43〉は，いったん郷里に埋葬されたが，子の李徳林の隋朝での功績により二度にわたり隋朝の追贈官を受ける（『隋書』巻42李徳林伝）。墓誌によればそれは開皇5年（585）11月25日のことであり，翌年正月9日に李徳林自らが墓誌序文を撰し父母を改葬した。その他の遷葬例については俄に確認ができないが[5]，卒年が前王朝でしかもかなり時間が経過したものであるのに，墓誌標題に「隋」とある墓誌の中には，このような隋朝での追贈の可能性を考えてよいだろう。また，前引爾朱氏墓誌〈87〉には「詔聴改葬」とあり，子孫からの申請による改葬もある。

さらに，長生した妻（子など親族の場合もある）が死亡した場合，先逝した夫の墓に合葬されることが一般的であるが，開皇年間の長期間経過後の遷葬には，先逝の夫を新しい場所へ遷葬し合葬する例もみられる。この場合，妻（子）が居住していた長安・洛陽に夫を遷葬していることが注目される（〈19〉〈20：招魂葬〉〈60〉）。また，北斉下で死亡した墓主は洛陽近郊へ（任顕〈66〉，趙齢〈119〉，□敬〈137〉），北周下では長安へ〈146〉という傾向が見いだせることも興味深い。

以上，開皇年間の北人墓の動きをまとめると，北周北斉併合時に見られた山東氏族による本貫地埋葬が引き続き確認できるものの，洛陽・長安埋葬の割合が多数を占めており，これはこの時期に長安・洛陽への居住集中化が始まっていることを示す。さらに，洛陽への埋葬には，北魏洛陽遷都後に新しく造られた北魏時代の一族墓の存在が関与していること，また長期間経過後の遷葬が頻繁に確認されるが，東西のどちらの政権に所属していたかによって，埋葬地が洛陽と長安に分離していることを確認した。

ではつぎに，南人墓の動きを見ていこう。

## 三 南人墓の動き

### 1 南朝墓の分布

隋の南人墓をみる前に，それまでの南人の墓葬分布と本籍地・都埋葬の大まかな傾向を掴んでおきたい。まず，南北政権の対峙時，北朝の東西政権間の場合と同じく［室山2007①］，南北の国境を越えて遺体を戻すことはできなかった。北周保定中（561-565）に陳で戦没した裴鴻の遺体は，墓誌に「呉人禮送神柩還京」とあるが〈88〉，これは特別なケースであろう。したがって北朝に降下した南人が死亡した場合，北朝領土内で埋葬されるが，それは都周辺である。近年発見の「袁月璣墓誌」には，女婿王琳（会稽山陰の人）に従って梁朝から北斉に奔った袁月璣（陳郡陽夏の人）が，北斉天統5年（570）に客館で死亡し，「鄴県之西里」に埋葬されたことがわかる。それは隋・陳の対峙時でも同様である。前引梁坦は，東魏から梁に降下し梁天監14（515）年に死亡したが，開皇3（583）年に妻子が隋朝下の洛陽で死亡し同年に埋葬する際に，「霊柩仍在梁朝，未帰丘壟」として招魂葬を行った〈20〉。また『隋書』巻47韋世康附韋沖伝に，

> 後従大将軍元定渡江伐陳，為陳人所虜，周武帝以幣贖而還之，帝復令沖馬千匹使於陳，以贖開府賀抜華等五十人及元定之柩而還

とあり，交戦中に死亡した武官を返還させるため馬千匹を差し出している。

では，以下に東晉南朝墓の実態を概観してみたい。皇帝陵については，東晉は南京市の富貴山および鼓楼一帯にあり，劉宋と陳は南京付近，南斉・梁は丹陽にある[6]。また南京市北郊・東北部一帯にも東晉早期から南朝晩期までの皇室成員または重臣と思われる集中墓地がある[7]。呉・西晉・南朝下の有力氏族（江南土着氏族と北来氏族）については，近年までに多数の六朝家族墓（一族墓）が発見されている。

北来氏族では，東晉・劉宋の琅邪王氏（南京北郊象山），顔氏（南京老虎山），陳郡謝氏（南京南郊司家山・鉄心橋），廣陵高氏（南京東郊仙鶴観），廣平李氏（南京呂家山）があり，いずれも建康（南京）周辺に位置している。これら北来諸族は，南渡後，その居住地も大概は建康に設定せざるをえなかったと思われる。これに対して，土着大族では，呉・西晉の周氏（宜興），呉の朱氏（馬鞍山），西晉の張氏（呉県張陵山）があり，建康からかなり離れた本拠地にある[8]。中村圭爾氏によれば，南朝下の江南豪族は本籍地帰葬という原則を厳密に遵守しているが，僑郡県という特殊な形態を生み出した北来の氏族は，建康近郊とその周辺の限られた地域に一族墓を集中させる。この北来氏族の本貫（僑郡県）と葬地の関係は，建康北郊に僑郡県を設置し墳墓の地と一致させることによって，そこに名実ともに本貫（南琅耶郡）を再現するもの（琅耶王氏・顔氏）や，旧来の晋陵郡に僑郡（南蘭陵郡）を僑置し，そこに帝陵を置いた南斉梁帝室蕭氏，あるいは南京近郊や浙東に新しい本拠地を設定するもの（陳郡謝氏）など様々であり，このような本貫とどのような関係を持つのかが，南朝貴族の存在のあり方を示すと指摘している［中村1982］［中村1983］。

ただこのほかに，六朝領土全体では江蘇省以外で，安徽・湖北・湖南・江西・浙江・福建・広東などからも多数の呉・両晉・南朝墓が発見されており［室山2002］，その報告数は実に北朝墓を遙かに超える。以上の一族墓のほか，墓誌が出土しないため姓が不明であるが，近年報告された来龍村墓群（安徽省当塗県），南北朝抗争地にある淮南清浦区墓群，南京谷里鎮の両晉六朝墓群，浙江省蕭山航瑪墓群などは[9]，上層官僚の家族墓である可能性がある。

残念ながら，ほとんどの呉・西晉・南朝墓からは墓誌が出土せず，幸いに刻字磚が出土したとしても，その姓名が墓主であるのか磚製作者を指すのか，或いは紀年であれば死亡・埋葬・合葬・改葬年であるのか，磚製作年であるのか，またそれらが混在している場合は意図的なのか偶然的無秩序によるのかが，ほとんどの場合判然としない。したがって現在のところは，有力氏族墓を含めた南朝墓全体を時系列に把握することはほとんど不可能である。ここではひとまず以上の全体の大まかな分布を確認するに留め，表1の南人墓をもとに考察を進めたい。

### 2 隋の南人墓

開皇年間の隋墓誌で，来歴の政権が確認できる墓主と，祖・夫についてみると（表1），南人墓誌が北人墓誌に較べて圧倒的に少ないことがわかる。しかもそのほとんどは南朝からいったん北朝へ降って入隋した者たちである。陳滅亡から開皇末のおよそ20年もの間，北人に較べて南人が埋葬されなかった可能性は極めて低いであろうし，この不均衡さは開皇年間以後の仁寿・大業年間になっても大きくは変わらない。次に述べるように北朝に降った南人は隋朝で墓誌を製作していることから，先に述べた南朝墓の墓誌埋葬の少なさの理由とも関係するのかもしれないが，現時点ではわからない。かろうじて出土している南朝に関連した人物の墓誌を取り上げ，その卒葬地をみていこう。

後梁・陳滅亡前として，徐之範〈34〉・徐敏行〈32〉父子は，すでに北斉で重任されていた長兄徐之才を頼って北斉に降り，北斉・北周・隋に仕官したのち，開皇4年に晉陽で死亡し，同年12月同日に山東省嘉祥県に埋葬されており（本貫は東莞姑幕）[10]，本籍地埋葬とみな

せる。開皇3年（583）と記載のある張静墓誌〈26〉は，父と子4名の合葬墓誌である（「建此五墳，而安一所」）。本貫は清河であるが，墓葬は安徽省合肥市西郊にある[11]。ただし，墓誌の残存状態から張静本人の任官王朝は読めない（考証によれば，「武衛将軍」は北魏・北斉・梁にあり）。墓誌によればそれぞれの享年は，長子元通37才（南斉拓遠将軍），第4子元叔29才（陳伏波将軍），第2・3子享年記載無し（両者ともに陳招遠将軍），父享年記載無し（劉宋振遠将軍）とあるが，張静の享年は49才とあるから，張静の死亡時からはかなり後の埋葬であると考えられ，合肥はこのとき隋の領土であるから，どういった経緯で張静家族がここに埋葬されたか，不明である。梁から北周を経て入隋したことが確認できる宋胡〈38〉は，本貫は北斉・北周・陳との境に位置する「襄州当容郡武陵県」に持ち，開皇5年（585）に「杜化」（今の河南霊寶県）で死亡し，同年長安に埋葬されている。

陳滅亡時，陳皇帝と官僚は長安に連行された（［禎明三年］三月己巳，後主與王公百官発自建鄴，入于長安。『陳書』巻6）。『隋書』巻64沈光伝には，「呉興人，父君道，仕陳吏部侍郎，陳滅，家于長安」とあり，官僚のある者はそのまま長安に居住したことがわかる[12]。梁から北斉を経て入隋し，開皇10年（590）に死亡した陶蛮朗〈131〉は（墓誌標題は北斉の官職），開皇14年（594）に，本籍丹陽より西北に位置する寿春（安徽省淮南）から墓誌が出土した。卒地は「宅」とあるのみだが，卒地は隋朝下領土であることに間違いはない。本貫丹陽（建康）は壊滅的被害を被っているため（後述『顔氏家訓』），ここに帰葬したと思われるが，隋の統一によって南北折衝地に位置する寿春にも帰葬が可能になったと考えられる。現在のところ開皇年間最後（開皇20年（600））の出土墓誌である潁川許昌の人陳翊〈186〉のみが，陳からの入隋を確認できる。墓誌によれば，彼は梁→北周→陳→隋と南北の四朝を渡る。ただしこの陳翊墓誌は，考証では墓誌や出土地の情報が不明である。ただ葬地の「高陽原」は，劉紹墓誌〈160〉に「大興県高陽原」，宋胡墓誌〈38〉と呂思禮墓誌〈113〉に「高陽原」とあり，いずれも西安長安県の出土であるから，同じ場所を指すのであれば，長安埋葬である。

以上，少ない資料から南人墓の動きをまとめると，南人の葬地は陳滅亡後において，南朝下の本貫に戻る場合と，そうでない場合（長安埋葬）があり，開皇年間では傾向が全く判然としない。ただ少なくとも北人墓との違いとして，北朝を経て入隋した南人以外では，長期間経過後の遷葬がないこと，つまり南朝下の祖先墓を本籍地や洛陽・長安に移す例がないことが挙げられよう[13]。

## 結びにかえて

以上の分析をここに総括すると，開皇年間において，北斉出身の山東氏族と弘農楊氏は郷里に帰葬しているが，そのほかのほとんどの氏族については長安と洛陽に葬地が集中している。さらに，北朝時期の祖先墓を，本貫または長安・洛陽に移設するという長期間経過後の遷葬が多く見られたが，洛陽については，まだ東都が建設されていない時期であるが，そこへの埋葬は北魏洛陽遷都後に形成された一族墓の存在が，大きく関与しており，長安についてもその可能性が考えられる。また長安と洛陽については，北周出身官僚は長安に，北斉出身官僚は洛陽に埋葬する傾向が見いだされた。このような現象をみるに，隋の開皇年間は，北魏洛陽遷都以後，華北地方において政権が分立し，また併合されるという政治的背景をもとに，遷都と領土の変化を経て流動してきた有力氏族の埋葬地選択が，華北統一によって一つの帰着点をむかえ，さらに次の大業年間・唐代の両京居住集中へ発展する布石となりつつある時期と捉えてよいだろう。

南人墓については，墓誌自体の存在が極めて少なく現時点では判然としなかったが，少なくとも南朝下の祖先墓を他所へ移設するという，長期間経過後の遷葬は確認できず，北人墓が隋建国直後から活発に動いていくことに較べて対照的な現象であった。隋朝下の南人の動きについては，次の仁寿・大業年間の南人墓誌を手がかりに，今後考察を深めていきたい。

以上の隋開皇年間の葬地の状況からみると，すなわちこの時期において，すでに都居住化の傾向が始まっていると考えられる。隋開皇年間にこのような都居住の初発点が確認されることは，はじめに述べたように，唐の官僚貴族成立と関わる問題として重要である。ただし，この問題をさらに探究するためには，東都（洛陽）が建設される大業年間の洛陽居住の状況を検証する必要がある。そしてこの大業年間の洛陽居住は，北魏後期の洛陽居住と関連させて考察しなければならないし，開皇年間の都長安の居住とも対比させることが必要であろう。稿を改めて論じたい。

**【参考文献】**

［毛 1981］：毛漢光「従士族籍貫遷遷看唐代士族之中央化」（『中国中古社会史論』上海書店出版社, 2002 所収）
［中村 1982］：中村圭爾「南京附近出土六朝墓に関する二三の問題」（『六朝江南地域史研究』汲古書院, 2006 所収）
［中村 1983］：中村圭爾「南朝貴族の本貫と僑郡県」（『六朝貴族制研究』風間書房, 1987 所収）
［室山 2005］：室山留美子「中国墓葬文献目録　三国両晋南朝篇」（『大阪市立大学東洋史論叢』14）
［室山 2006］：室山留美子「北魏漢人官僚とその埋葬地選択」（『東洋学報』87-4）

［室山 2007①］：室山留美子「北朝时期汉族官僚在首都的居住—以东魏北齐官僚葬地选择为线索」（井上徹・楊振江編『中日学者論中国古代城市社会』三秦出版社）
［室山 2007②］：室山留美子「北魏の郡望—上谷寇氏を中心に」（『史学研究』258）

## 注

1. 毛氏の考察対象は，地望が両京一帯と重なる氏族（京兆韋氏・河南鄭氏・弘農楊氏・京兆杜氏）を除き，唐代の博陵崔氏・趙郡崔氏・趙郡李氏・隴西李氏・太原王氏・琅邪王氏・范陽盧氏・渤海高氏・河東裴氏・彭城劉氏・河東柳氏・蘭陵蕭氏・河東薛氏を房支毎に分類し，唐代正史（主に宰相世系表）と『全唐文』所載の墓誌と唐墓誌を史料とする。なお，滎陽鄭氏・范陽盧氏については，愛宕元氏による詳細な論考がある（愛宕元「唐代范陽盧氏研究—婚姻関係を中心に—」（川勝義雄・礪波護編『中国貴族制社会の研究』京都大学人文科学研究所），同「唐代滎陽鄭氏研究—本籍地帰葬を中心に—」（『人文』第XXXⅤ集）。なかでも隋末唐初の本貫と葬地の実態と，唐代後半期の大きな社会変動下にあって，名族が顕示し得る最も確実な族結合の具体的証が共通墓域（本貫）への改葬であるという指摘は非常に重要である。
2. ただし，毛氏のいう「新貫」という語句は，卒地と居住地こそがその氏族の籍貫の実態を示すという前提から，同じく毛氏のいう「旧郡望（墓誌や伝に記載されている郡望）」と対照区別させるために便宜的に使用されたのであり，籍貫を京師に改めたことだけを指すのではない。筆者は，居住や卒地を他所に移してもなお郡望を称し続けることと，籍貫そのものを改めた事実とは区別する必要があると考えており，その点で毛氏の「新貫」という言葉は，なお問題があると思う。しかし，その概念には基本的に賛同する。都への居住が集中していくなかで，ある氏族がどこに本拠地を持つのか（或いは持とうとしているのか）を考えるとき，やはり「居住（寓居地）」・「一族墓」「帰葬」という揺るぎない事象は，本貫との乖離または一致の実態と，それにまつわる意識を明確に際だたせ，その氏族的性格を解釈するための，重要な手がかりとなるはずである。
3. 高祖期のこととして，年老をもって「帰於河内，卒於家」（巻55爾朱敞）とある。なお爾朱敞墓誌〈106〉によれば，卒地は「懐州智津里第（河内）」，埋葬は洛陽である（本文参照）。ほかに煬帝期の記事として「乃葬主於洪濆川」（巻80列女蘭陵公主伝）がある。
4. 陝西省考古学研究所「西安洪慶北朝・隋家族遷葬墓地」（『文物』2005-10）。
5. 呂道貴〈116〉・呂倉〈117〉兄弟は，開皇12年の同月同日にそれぞれの妻と「歴城西南寶公山北」（済南市経八路）に合葬されたが，死亡年が不明であり，伝にも「終於家」とあるのみで詳細は伝わらないが，彼らの父母は，皇太后呂氏（呂苦桃）の兄弟と判明したことで追贈・改葬されており，斉州に墓がある（『隋書』巻79外戚伝高祖外家呂氏。高祖外家呂氏，其族蓋微，平斉之後，求訪不知所在，至開皇初，済南郡上言，有男子呂永吉，自称有姑字苦桃，為楊忠妻，勘験知是舅子，于是文帝追贈外祖双周為上柱国・大尉・青州刺史等，封斉郡公，外祖母姚氏為敬公夫人，詔并改葬，于斉州立廟，置守冢十家，以栄吉襲爵，留在京師。）
6. 羅宗真『六朝考古』上海古籍出版社，1994。王志高「梁昭明太子陵墓考」（『東南文化』2006-4）ほか。
7. 南京市博物館・南京市玄武区文化局「江蘇南京市富貴山六朝墓地発掘簡報」（『考古』1998-8）。
8. 以上，『考古』1959-6，1983-4，1998-8，『文物』1965-6，1965-10，1998-5，2000-7，2002-7，2007-2，『南方文物』2005-4ほか。
9. 順に，『東南文化』2008-1，『東南文化』2007-3，『文物』2008-8，『南方文物』2000-3，『文物』2008-12。
10. 山東省博物館「山東嘉祥英山一号隋墓清理簡報－隋代墓室壁画的首次発現」（『文物』1981-4）。
11. 安徽省博物館「合肥隋開皇三年張静墓」（『文物』1988-1）。
12. 後主は隋仁寿4年（604）に「薨於洛陽，時年五十二，追贈大将軍，封長城県公，謚曰煬，葬河南洛陽之芒山」とあり，また「高宗柳皇后…陳亡入長安，大業十一年薨於東都，年八十三，葬洛陽之邙山」とある。
13. 『顔氏家訓』終制第20には，江陵の地に磚も敷いていないような仮埋葬をしている顔之推の父母を，梁承聖年間に建康に改葬しようと許可を得て一度は取りかかったが果たせなかったこと，隋統一後となっても，家に資金も無く，また建康の荒廃状態を慮って遷葬できないことなどが述べられている。宇都宮清吉氏によれば，顔之推の死亡は開皇11年（591）頃，この終制篇を書いたのは開皇10年（590）頃であり，ちょうど陳朝滅亡の直後である（宇都宮清吉訳注「解題」『顔氏家訓2』平凡社東洋文庫514，1990）。もとより顔之推は北周隋という關中政権に対して良い感情を持っていなかったようであるから（前掲宇都宮氏解題による），彼のこのような意思は特別な例であるかもしれず，現時点ではわからない。何よりも南朝墓自体が歴史史料として利用するには，非常に限定的とならざるを得ないため，甚だ困難を伴う。ただ，隋朝下華南地区の墓葬分布と南朝墓全体の分布を比較することが，南人の本拠地移動の一端を浮かび上がらせる一つの手だてとなる可能性もある。今後の課題としたい。

## 【付記】

本稿は，平成21年度科学研究費補助金（基盤研究C，「魏晋南北朝における地域意識と地域文化に関する総合的研究」）の研究成果の一部である。

# Capital（ZhangAn“長安”and LuoYang“洛陽”）Domicile in the KaiHuang“開皇”Period:

## from epitaphs of bureaucracy belonging to the Northern and Southern Dynasties

Rumiko MUROYAMA

In the Tang dynasty, many upstream aristocrats had moved from their home. So they lived in the two capitals (ZhangAn“長安”and LuoYang“洛陽”), and made graves there. This tendency had implications for bureaucratic aristocrats formed in SuiTang“隋唐”, and moreover connects to look below the surface of the upstream aristocrats of the Wei-Jin and Northern and Southern Dynasties. I applied the following prospect of the cause as the union of whole countries, and that a new capital (DaiXingCheng“大興城”) was made. This report demonstrated residence during the KaiHuang“開皇” period, and verifies the place of the bureaucrats' graveyard from the epitaphs. Concretely, I examined where the bureaucrats' who belong to the Northern and Southern Dynasties had chosen their graveyards at this time. In the former case, I contemplated and verified these phenomena, that the country was divided and it was integrated in the northern district in China. In the latter case, I confirmed the place of upstream aristocrat's graves in SunWu“孫呉”, XiJin “西晉”, and the Southern Dynasties ,and searched for people's movements when the HouLiang “後梁”and Chen “陳”were ruined. The result of these investigations has been to clarify that their burial places concentrated on their hometowns, ZhangAn and LuoYang. In addition, it turned out they have reburied the ancestors who had been fairly buried ahead, but bureaucrats from the Southern dynasties period were not doing this. However, what should be noted is a relation of the existence of the clan grave made in the latter term of the Northern Wei period“北魏” to burials in LuYang. Moreover, the bureaucrats from the Northern Zhou“北周” tend to make their graves in ZhangAn, and from the Northern Qi “北斉”make them in LuoYang. Being able to confirm the place of the graveyards like this showed that people's residences began to concentrate on the ZhangAn and LuoYang in the KaiHuang period.

Keywords : capital domicile, Kaihuang, selection of burial ground, epitaphs
tombs of the northern and southern and Sui dynasties period